

第2次

# 高岡市地域福祉活動計画

(計画期間:平成28年度～平成32年度)

基本理念

みんなで支え合い、みんなが『あっかり』して生活できる社会を目指して



社会福祉法人高岡市社会福祉協議会

## はじめに



多くの皆様からの助言、提案をいただき、第2次高岡市地域福祉活動計画を策定いたしました。

先の第1次活動計画では、高岡市内全域での住民座談会を通して、地域の福祉課題やこんな高岡市になればという想いを寄せていただきました。

今回の第2次活動計画では、第1次の想いを継承しつつ、5年間の実践をふまえて策定したものです。

5年前に比べて、私たちを取り巻く環境の変化に伴い、地域福祉課題も多様化してきており、自分にとって無理のないつながり方や、相手にとって心地良いつながり方を見つけて助け合いの輪を広げていくような、「助け合いのしくみづくり」などへの取り組みがますます重要になって参りました。

本計画は、高岡市が策定した「高岡市地域福祉計画」の「みんなで支え合い、みんなが『あっさり』して生活できる社会を目指して」という共通の理念をもち、この計画の実現のために、行政や関係団体と協働し地域福祉活動を推進していくものです。

結びに、計画の策定に携わっていただきました皆様に厚くお礼申し上げますとともに、本計画の推進にあたりまして、引き続き皆様のご参加ご協力をお願い申し上げます。

平成28年3月

社会福祉法人 高岡市社会福祉協議会  
会長 尾崎 憲子



# 目次

## はじめに

第1章 第2次地域福祉活動計画の策定にあたって	1
1 地域福祉活動計画策定の背景	1
2 地域福祉活動計画の目的	1
3 地域福祉計画と地域福祉活動計画との関係	2
4 地域福祉活動計画づくりの組織	3
5 地域福祉活動計画の策定経過	4
6 地域福祉活動計画の期間	4
第2章 第1次地域福祉活動計画を振り返って	5
1 第1次地域福祉活動計画の推進に向けた主な取り組みと新たな取り組み	5
(1) 計画の推進に向けた主な取り組み	5
(2) 新たな取り組み	6
2 第1次地域福祉活動計画の分析と評価	7
第3章 第2次地域福祉活動計画の推進に向けて	11
1 第2次地域福祉活動計画の基本理念と基本目標	11
(1) 地域福祉活動計画の基本理念	11
(2) 地域福祉活動計画の基本目標	11
2 第2次地域福祉活動計画体系図	12
3 第2次地域福祉活動計画年度	13
4 地域福祉活動の展開	19
資料編	44

## 第1章 第2次地域福祉活動計画の策定にあたって

### 1 地域福祉活動計画策定の背景

近年、急速な少子高齢化や人口減少、核家族化の進行、更には一人ひとりの価値観が多様化する中で、家庭や地域のつながりが希薄化してきています。

こうした中、ひとり暮らし高齢者や認知症の高齢者をはじめ、一人親家庭、心身に障害のある人等が増加するとともに、虐待やひきこもり、孤独死等の社会問題も多発し、人々の生活はますます厳しい状況となっています。

また、地震や風水害等の災害時における高齢者や障がい者等の避難支援や安否の確認が大きな課題となっており、これらの方々が迅速で安全に避難するための対策が大変重要となってきました。

このように、私たちの生活環境が大きく変化している中で、一人ひとりが抱える困りごとにも多種多様化し、個人の力では解決できない問題が多く生じてきています。

国においては、団塊の世代が75歳以上となる2025年(平成37年)を見据え、平成27年度に介護保険法が改正され、高齢者の方が可能な限り在宅での生活ができるよう地域包括ケアシステムの構築を目指す一環として、地域の支え合いの体制づくりを推進するための新しい総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業)が平成27年度から導入されました。

また、生活保護に至る前の自立支援策の強化を図るための生活困窮者自立支援法が平成27年度から施行されました。

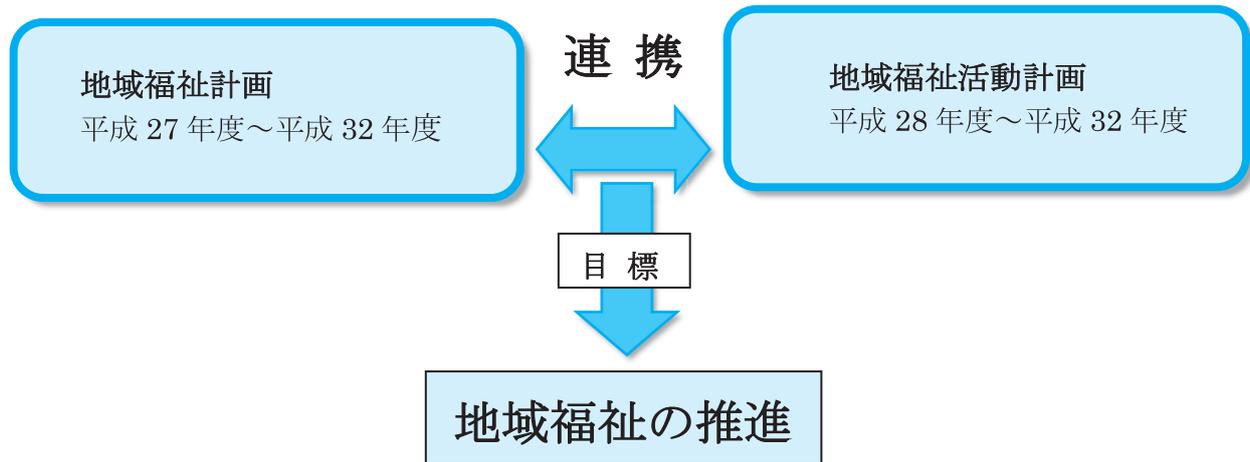
### 2 地域福祉活動計画の目的

このような状況も踏まえ、高岡市においては、平成27年に「みんなで支え合い、みんなが『あっさり』して生活できる社会を目指して」を基本理念とした高岡市地域福祉計画(行政計画)を策定されました。

高岡市社会福祉協議会においても、平成23年度から取り組んできた「みんなでつくる地域福祉」を基本理念とした高岡市地域福祉活動計画の進捗状況を踏まえ、かつ、高岡市で策定された行政計画と連携しながら、住民、民間の立場から地域福祉活動をどのように進めていくのかを明らかにし、地域福祉の振興と発展に取り組むための指針として、第2次高岡市地域福祉活動計画を策定しました。



### 3 地域福祉計画と地域福祉活動計画との関係



地域福祉を推進するための計画には、行政が対応する「地域福祉計画」と、社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」の2つの計画があります。

地域福祉計画は、社会福祉法第七十条の規定に基づき、市町村が行政計画として策定するものです。

また、地域福祉活動計画は、社会福祉法第九十条の規定に基づく社会福祉協議会が活動計画として策定するものです。

高岡市全体の方向性、理念、仕組みをつくる計画が「地域福祉計画」で、地域福祉の推進について、具体的に取り組む活動などをまとめた実践的な計画が「地域福祉活動計画」であり、この2つの計画が「地域福祉」という同じ目標に向かって、お互いに連携する関係にあります。

#### 【参考】社会福祉法より抜粋

##### 第七十条（市町村地域福祉計画）

市町村は、地方自治法第二条第四項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

- 一 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- 二 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- 三 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

##### 第九十条（市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会）

市町村社会福祉協議会は、一又は同一都道府県内の市町村の区域内において次に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であって、その区域内における社会福祉事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、かつ（中略）市及び町村にあってはその区域内における社会福祉事業又は更生保護事業を経営する者の過半数が参加するものとする。

- 一 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- 二 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- 三 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
- 四 前三号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

## 4 地域福祉活動計画づくりの組織

この計画の策定にあたっては、専門的に審議していくため「地域福祉活動計画策定委員会」と、社協職員が主体となり計画作成の基礎資料収集や実態把握等を行う「作業部会」を設置しました。

なお、策定委員会には、自治会、校下・地区社協（以下「校区社協」という）、ボランティア団体、老人クラブ、障がい者団体等の各関係機関の代表が加わり、地域住民の意見・提案を計画に反映させました。

また、各校区社会福祉協議会で実施している高岡あっさり福祉ネット推進事業のアンケート調査結果等をもとに「地域福祉活動計画」の策定に取り組みました。

地域福祉活動計画策定委員会

【役割】

- ・活動計画（素案）の審議
- ・活動計画（案）の作成



▲策定委員会

作業部会

【役割】

- ・基礎資料収集・実態把握
- ・活動・事業の進め方の検討
- ・活動計画（素案）の作成



▲作業部会

住 民

【役割】

- ・高岡あっさり福祉ネット推進事業でのアンケート結果や提案など



▲訪問調査（アンケート）

## 5 地域福祉活動計画の策定経過

開催日	会議等	検討内容
平成 27 年 7 月 13 日	第 1 回作業部会	・ 計画の骨子について ・ 計画のスケジュールについて 等
平成 27 年 8 月 20 日	第 2 回作業部会	・ 地域の困り事 ・ 社協としてできること 等
平成 27 年 9 月 29 日	第 3 回作業部会	・ 自分たちの現状を知る ・ 自分たちの目指す社協とできることを考える
平成 27 年 12 月 18 日	第 1 回策定委員会	・ 第 1 次地域福祉活動計画の分析と評価 ・ 第 2 次地域福祉活動計画骨子（案）
平成 28 年 2 月 26 日	第 4 回作業部会	・ 第 2 次地域福祉活動計画（案）について
平成 28 年 3 月 29 日	第 2 回策定委員会	・ 第 2 次地域福祉活動計画（案）について

## 6 地域福祉活動計画の期間

計画の期間は、平成 28 年度から平成 32 年度までの 5 年間とします。  
また、今後の制度改革や社会情勢の変化等に対応し、必要に応じて計画の見直しを行います。



▲高岡市社会福祉協議会館の外観

## 第2章 第1次地域福祉活動計画を振り返って

### 1 第1次地域福祉活動計画の推進に向けた主な取り組みと新たな取り組み (計画期間：平成23年度～平成27年度)

#### (1) 計画の推進に向けた主な取り組み

- ① ふれあい・いきいきサロン事業の実施校区を、24校区から高岡市内全27校区に拡充しました。
- ② 産み育てやすい環境づくり・子育て支援事業により、ファミリー・サポート・センター等関係機関と連携し、子育て研修会を実施する等、子育て世代への支援にも取り組み始めました。
- ③ 市社協の相談窓口を把握するため、相談窓口早見表を作成しました。平成24年度から、職員研修会を定期的に行い、平成25年度には研修委員会を立ち上げるなど、職員研修の充実を図りました。
- ④ 地域福祉活動レシピ集を作成し、全校区社協の実施事業を紹介しました。



▲ふれあい・いきいきサロン事業



▲子育て支援事業

## (2) 新たな取り組み

- ① **高岡あっさり福祉ネット推進事業**に取り組み、高岡型地域福祉ネットワークの構築を目指してきました。
- ② **高岡市ボランティアセンター運営委員会**を設置し、事業や機能について、検討を行いました。
- ③ **健康なまちづくりマイスター育成事業**に取り組み、保健・福祉活動に携わる住民・ボランティア等が、地域包括ケアシステム構築に向けて、共に考える機会としました。
- ④ **権利擁護人材育成研修会**を開催し、権利擁護人材の資質向上のための支援体制の充実を図りました。



▲高岡あっさり福祉ネット推進事業



▲健康なまちづくりマイスター育成事業

## 2 第1次地域福祉活動計画の分析と評価（計画期間：平成23年度～平成27年度）

### I みんなで支援する環境づくり

番号	事業の目標	事業の進捗状況	課題・問題点
1 地域福祉活動の充実			
(1) 校区社協の組織体制と活動強化			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区社協の組織体制及び活動の強化を図る。</li> <li>小学校区での地域福祉活動の支援を目的にした実施事業を紹介する地域福祉活動レシピ集を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市社協職員を地区担当として配置し、福祉課題等について一緒に考えるなど連携を図るよう努めた。</li> <li>校区社協リーダーを育成するための研修会を開催した。</li> <li>平成26年度に実施した地域福祉実践研究セミナーinとやまでの発表等全国規模の大会発表により住民の意識向上につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区社協の事業の維持継続について、地域に温度差があり、負担と捉える場合がある。</li> <li>地域福祉活動レシピ集については、平成26年度末に全校区より集まった原稿を元に、作成し配布したが、レシピ集の活用方法の周知不足と、レシピ集の意味がわかりにくかったとの声があった。</li> </ul>
(2) 住民主体の見守り・援助体制の強化			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい・いきいきサロン事業やケアネット活動等住民主体の見守り、援助体制の強化を図る。</li> <li>子育て世代への支援にも取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい・いきいきサロン事業の実施地区が、24校区から高岡市内全27校区となり、開催箇所も増加している。</li> <li>新たに高岡あつかり福祉ネット推進事業に取り組み、高岡型地域福祉ネットワークの構築に努めた。</li> <li>子育て研修会を実施し、子育て世代への支援にも取り組み始めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい・いきいきサロン事業をケアネット活動のニーズ把握の場として機能させる等の仕組みづくりが必要である。</li> </ul>
(3) 各種団体・機関・施設等との連携と協働			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政、自治会、民生委員児童委員、老人クラブ、ボランティア、福祉施設等様々な組織団体等が連携し、地域福祉活動に参加できる環境をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康なまちづくりマイスター育成事業等を通じて、行政をはじめ保健関係者や地域包括支援センター等との連携に努めた。</li> <li>多様化する相談内容に対して、関係機関と連携した相談体制を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>援助を必要としている人の問題解決のためには、多岐にわたる分野の専門機関がかかわる必要がある。</li> <li>NPO法人や企業等との連携が必要である。</li> </ul>

番号	事業の目標	事業の進捗状況	課題・問題点
2 在宅福祉サービスの推進			
(1) 高齢者・障害者等へのサービス提供			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者や障がい者等が、住み慣れた地域で安心して暮らすために、相談、援助活動の強化を図り、適切なサービスの利用促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活自立支援事業は、高齢者や障がいのある方を対象に、日常的な金銭管理や福祉サービスの利用手続き等を行っている。契約者数は年々増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活自立支援事業については、認知症高齢者や、単身世帯だけでなく、夫婦共に金銭管理が必要なケースや、障がいのある方等の相談が増加している。利用者に寄り添いながらより一層の利用促進を図っていく必要がある。</li> </ul>
(2) 生活の支援事業			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>低所得世帯、障がい者世帯、および高齢者世帯に対し、必要に応じた資金貸付を行い、生活支援に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活福祉資金や高岡市民生たすけあい基金の貸付事業は、低所得者世帯、障がい者世帯、および高齢者世帯への貸付を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活福祉資金や高岡民生たすけあい基金の貸付事業等の多様化する相談内容に対して、関係機関と連携した相談体制の充実に努める必要がある。</li> </ul>

## Ⅱ みんなが主役になる人づくり

番号	事業の目標	事業の進捗状況	課題・問題点
3 ボランティア・市民活動の環境づくりの推進			
(1) ボランティアの育成・活動支援			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動のきっかけやスキルアップのため、各種研修会や講座を開催するとともに、ボランティア広場の開催やボランティア情報紙による情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアの入門講座や社会変化や地域ニーズに応じたボランティア講座を開催している。</li> <li>ボランティア広場を実施し、児童生徒から高齢者まで気軽にボランティア活動の一端に触れてもらう機会を提供した。来場者数は年々、増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修会や講座の参加者の中には、少数ではあるが、新たな活動者の発掘につながっており、ボランティア活動をしていない方の活動のきっかけとして興味を持ってもらえるような内容や募集方法を更に検討していく必要がある。</li> </ul>

番号	事業の目標	事業の進捗状況	課題・問題点
	(2) ボランティアセンターの機能強化と活動支援		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のボランティアに関する理解を深めるとともに、ボランティア活動を促進するため、ボランティアの養成やボランティアに関する情報の提供に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア実践者をはじめ、行政関係者や地区社協活動者等で構成するボランティアセンター運営委員会を設置し、センター事業や機能の推進・強化体制について審議等に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアをしたい人とボランティアを求めている人とのコーディネート、各種の情報提供や活動室の提供などを通じて、ボランティア活動に対する支援や関心を高め、ボランティア活動に参加できる更なる環境づくりを進めていく必要がある。</li> </ul>
	(3) 災害救援ボランティア活動支援		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模災害を想定した防災訓練を県、市などと連携して実施し、防災に関する知識、技術の習得、心構えの形成や意識の高揚を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模災害を想定した社協による市災害ボランティア本部の円滑な立ち上げ訓練を常に行っている。</li> <li>全国の被災地へ災害救援ボランティアとして出向く高岡市のグループ活動に対し、市と協力して活動費等の一部の助成を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社協が、災害時に、行政や企業、NPO等関係機関と連携して、それぞれの役割を果たすことができるよう、平常時から具体的なイメージを持ってネットワーク形成に努めるとともに、社協の役割を明確にし、常に対処できる体制を構築しておく必要がある。</li> </ul>
4 福祉教育・人材育成の支援			
	(1) 福祉教育の推進と啓発		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉教育を促進するため、住民の福祉への理解や関心を深めるとともに、子どもに対し思いやりの心を持って助け合う心を育てる地域住民参加の取り組みを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉関係実践者の顕彰や地域、学校、社協が協働して地域に根ざした子どもたちのボランティア体験学習や社会貢献活動を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアしやすい環境整備にとどまらず、他団体との関係づくりや、それらをどのように地域福祉と関連づけて展開していくかなど、企画・調整に努める必要がある。</li> </ul>
	(2) 地域福祉活動の人材育成		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉セミナー等の各種研修会を開催し、福祉を考える機会を提供し、福祉人材の発掘、養成を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉セミナーやふれあい・いきいきサロン担当者連絡会を開催し、意見交換等を実施した。</li> <li>アクティブシニア地域デビュー講座を開催し、団塊の世代を含むシニア世代のボランティアを新たに養成してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区の福祉関係者の高齢化や役員の成り手がいない問題がある。より多様な人が参加できる集まりの形が求められている。</li> </ul>

I みんなで支援する人づくり

II みんなが主役になる人づくり

番号	事業の目標	事業の進捗状況	課題・問題点
5 社会福祉協議会の機能強化			
(1) 住民に開かれた社協づくり			
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉協議会の活動を、より多くの人に知ってもらうために、情報提供や地域福祉活動啓発のための事業の企画を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社協広報紙を年4回発行し、市内全戸に配布して、社会福祉協議会の活動を広報している。</li> <li>ホームページは随時更新している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社協広報紙の掲載記事が定型化している。わかりやすく見やすい紙面、読みたくなる記事の掲載に努める必要がある。</li> </ul>	
(2) 事業推進体制の充実			
<ul style="list-style-type: none"> <li>職員採用及び職員体制の強化を図る。また、職員間及び各事業間の連携強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度から定期的に職員研修を行い、各課の事業内容の説明や伝達研修を行っている。</li> <li>平成26年度からは、他の部署の職場体験を実施し、情報共有に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修、職場体験を継続し、職員間の情報共有及び連携を強化する必要がある。</li> </ul>	
(3) 職員の専門性の向上			
<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修への参加及び資格取得の促進また、困難事例に対応できるよう専門機関との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社協だけでは解決できない相談に対応するため、他の機関との連携や各種制度やサービスの情報を収集するよう努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の知識や技術を高めるための研修の充実を図るとともに、外部で行われる研修にも積極的に参加するよう努める。</li> </ul>	
(4) 財源の強化			
<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の減額、介護保険事業収入の減収のため、財源の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すでに実施している事業の経費等を見直すとともに、自主財源確保につなげることの必要性について共通認識を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民サービスにもなり、自主財源にもなり得るような事業を開発する必要がある。</li> </ul>	
(5) 組織体制の整備			
<ul style="list-style-type: none"> <li>各種事業及び経営に関して法人運営の意思決定と責任を負う理事会等の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高岡市社会福祉協議会の事業等を理解してもらうために、わかりやすい資料作成及び説明に努めてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解してもらうための説明を心がけることで、様々な意見をいただける理事会、評議員会としたい。</li> </ul>	

## 第3章 第2次地域福祉活動計画の推進に向けて

### 1 第2次地域福祉活動計画の基本理念と基本目標

高岡市社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画は、住民の生活全般にわたる福祉の向上を、具体的な活動で示すものです。

第2次地域福祉活動計画では、高岡市が策定する地域福祉計画と同じ基本理念と基本目標を定め、相互の連携による効果的な地域福祉活動の推進を図るものとなりました。



地域福祉計画と地域福祉活動計画は  
同じ基本理念と基本目標を掲げ、地域福祉の  
推進を目指します！

#### (1) 地域福祉活動計画の基本理念

「みんなで支え合い、みんなが『あっかり』して  
生活できる社会を目指して」

『あっかり』とは・・・

富山弁で「安心する」「ほっとする」「心が休まる」という意味で、「あかり」の連想から「明るい」意味も含まれます。

住み慣れた地域で、安心して暮らしていける「明るく温かい高岡」をイメージしています。

#### (2) 地域福祉活動計画の基本目標

Ⅰ

(地域づくり)

助け合い、支えあ  
える地域をつくら  
う。

Ⅱ

(仲間づくり)

みんなの暮らし  
はみんなで支え  
よう。

Ⅲ

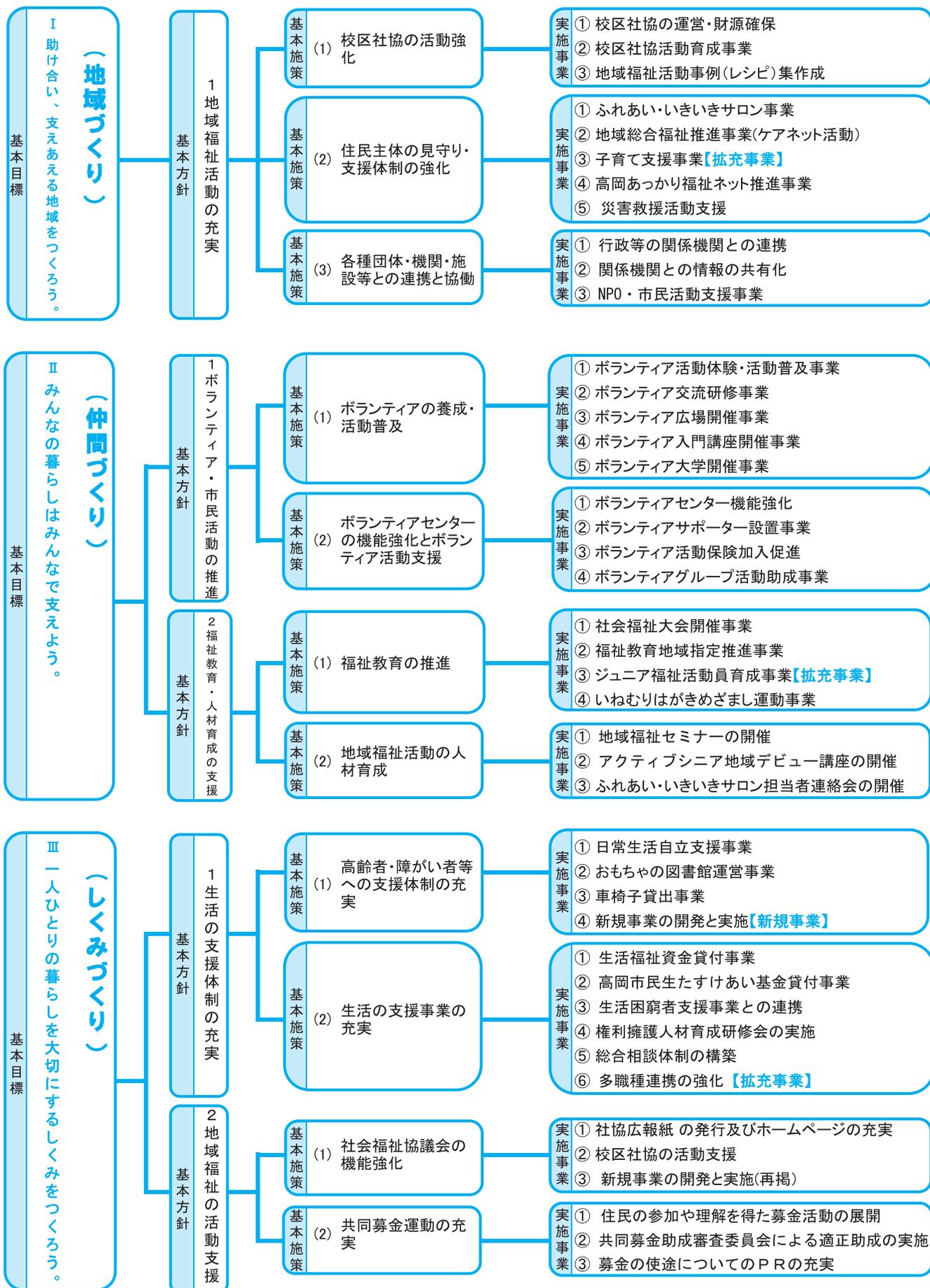
(しくみづくり)

一人ひとりの暮ら  
しを大切にするし  
くみをつくらう。

## 2 第2次地域福祉活動計画体系図

基本理念

みんなで支え合い、みんなが『あつまり』して生活できる社会を目指して



### 3 第2次地域福祉活動計画年度

基本理念 みんなで支え合い、みんなが『あつまり』して生活できる社会を目指して

基本目標 I 助け合い、支えあえる地域をつくろう。(地域づくり)

#### 1 地域福祉活動の充実

##### (1) 校区社協の活動強化

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度					
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
①	校区社協の運営・財源確保	校区社協	自治会 市社協・高岡市共同募金委員会 市	地域における関係団体との活動の連携や財源確保の方法を検討する。 ・自治会よりの援助 ・共同募金助成金の活用 ・補助金の確保 ・関係団体との活動の連携による資金の効果的活用						
②	校区社協活動育成事業	市社協	校区社協	市社協と校区社協の連携を図る。 ・校区社協リーダーを育成するための研修会を開催する。						
③	地域福祉活動事例(レシピ)集作成	市社協	校区社協	地域福祉活動計画作成毎に、校区福祉活動の充実・支援を目的に、27校区社協事業紹介の事例(レシピ)集を作成する。						

##### (2) 住民主体の見守り・支援体制の強化

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度						
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度		
①	ふれあい・いきいきサロン事業	市社協	校区社協・自治会・老人クラブ 民生委員児童委員協議会	平成26年度223箇所で開催しているサロンをさらに広め、開催箇所数が300箇所を超えるように努める。						300箇所	
②	地域総合福祉推進事業(ケアネット活動)	市社協	校区社協・自治会 民生委員児童委員協議会	地域住民が無理のない範囲で、地域で支援を必要とする人を支援する。平成26年度年間24,265回実施している活動延べ回数を、25,500回を超えるよう努める。						25,500回	
③	子育て支援事業【拡充事業】	市社協 市社協 校区社協	校区社協・自治会 民生委員児童委員協議会 母子保健福祉推進員	地域に応じた子育てサロンの充実に向け、ニーズ調査や開催方法等について検討する。	検討						
			ファミリーサポートセンター等の子育て支援団体	ファミリーサポートセンター等の子育てを支援する団体との情報交換を図るため、地域懇談会等に参加する。							
			ファミリーサポートセンター等	家庭および地域社会で子育てに関わる全ての方を対象とした研修会を開催し、みんなで子育てを考える機会とする。							

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度				
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
④	高岡あつかり福祉ネット推進事業	市社協	校区社協・自治会 民生委員児童委員協議会	市内全27校区で、その地区の特性や地域課題に合った支援のしやすい体制づくりを進める。	→				
⑤	災害救援活動支援	市社協	県社協 市	災害発生時における災害救援ボランティア活動が速やかにかつ円滑に実施できるよう整備する。	→				

### (3) 各種団体・機関・施設等との連携と協働

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度				
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
①	行政等の関係機関との連携	市社協	市 地域包括支援センター	要支援者が地域で孤立することのないよう、行政等との連携を密にする。	→				
②	関係機関との情報の共有化	市社協	市 校区社協 地域包括支援センター等	地域ケア会議への参加等、日頃の交流を通じて、お互いの信頼関係を築き、当事者の理解を得ながら関係機関との情報の共有化を図る。	→				
③	NPO・市民活動支援事業	市社協	NPO 市民活動団体	地域のNPOや市民活動団体の活動を支援するための、連絡会・情報交換会を開催する等連携を図るとともに、協働事業実施に向けた取り組みを行う。	→				



## 2 福祉教育・人材育成の支援

### (1)福祉教育の推進

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度				
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
①	社会福祉大会開催事業	市社協	校区社協 共同募金会 高岡市委員会	福祉関係者及び市民が一堂に集まり、福祉関係者の表彰と講演会等を行い、福祉への理解を深める。	→				
②	福祉教育地域指定推進事業	市社協	市内 小中高校	ふれあい・いきいきサロンや小規模作業所等地域の社会資源と学校と社協が体験学習の企画段階から積極的に協働し、学校に限らず地域に根ざした子供たちのボランティア体験学習・活動に関わる事業を実施する。	→				
③	ジュニア福祉活動員育成事業 【拡充事業】	市社協	市内小学校、校区社協	小学生が民生委員・児童委員や福祉活動員と一緒に地域福祉活動に参加することにより、社会に貢献することを学ぶ。	→				
④	いねむりはがきめざまし運動事業	市社協	市内小中学校	書き損じはがきや未使用のはがきを児童・生徒から寄付してもらい、子供たちへ社会福祉への参加意識と関心を持ってもらう。	→				

### (2)地域福祉活動の人材育成

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度				
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
①	地域福祉セミナーの開催	市社協	校区社協 民生委員児童委員 自治会	地域福祉活動関係者の全体研修会を行い、支え合って共に生きることの大切さを学ぶ。	→				
②	アクティブシニア地域デビュー講座の開催	市社協	校区社協	地域福祉推進の担い手として、その資質向上を図る。	→				
③	ふれあい・いきいきサロン担当者連絡会の開催	市社協	校区社協 民生委員児童委員 自治会・老人クラブ	日頃の活動の充実を目指し、研修および意見交換を行う。	→				

## 基本目標 Ⅲ 一人ひとりの暮らしを大切に作るしくみをつくらう。(しくみづくり)

### 1 生活の支援体制の充実

#### (1) 高齢者・障がい者等への支援体制の充実

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度				
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
①	日常生活自立支援事業	県社協 市社協		日常生活に不安を持つ方を対象に福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理の支援を行う。	→				
②	おもちゃの図書館運営事業	市社協		障害のある未就学の児童を対象に、おもちゃの貸出しや、遊びの場の提供、母親同士の情報交換の場として活用する。	→				
③	車椅子貸出事業	市社協		在宅の高齢者や障がいのある方の生活支援として、車椅子の無料貸出を行っている。	→				
④	新規事業の開発と実施【新規事業】	市社協		住民ニーズにあった新規事業の開発と実施をする。	検討	→			

#### (2) 生活の支援事業の充実

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度				
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
①	生活福祉資金貸付事業	県社協 市社協	民生委員児童委員、行政	低所得世帯、障がい者世帯、及び高齢者世帯に生活福祉資金の相談受付や貸付を行う。	→				
②	高岡市民生たすけあい基金貸付事業	市社協	民生委員児童委員、行政	低所得世帯の生活を援護するために、緊急かつ一時的に必要な生活資金を貸付を行う。	→				
③	生活困窮者支援事業との連携	市社協	市 ハローワーク	平成27年4月の生活困窮者自立支援法の施行に伴って、総合支援資金や緊急小口資金等の貸付を利用する方については、生活困窮者自立支援制度と連携した支援を行う。	→				
④	権利擁護人材育成研修会の実施	市社協	市	権利擁護について学びを深め、判断力が十分でない高齢者等の生活を身近な立場で支援する人材を養成する研修会を実施する。	→				
⑤	総合相談体制の構築	市社協	市 地域包括支援センター 各相談支援センター等	多様化する相談内容に対して、関係機関と連携した相談体制の充実・強化を図る。	→				
⑥	多職種連携の強化【拡充事業】	市社協	市 厚生センター 地域包括支援センター等	困難事例に対応できるよう、専門機関との連携の強化を図る。	→				

## 2 地域福祉の活動支援

### (1) 社会福祉協議会の機能強化

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度				
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
①	社協広報紙の発行及びホームページの充実	市社協		わかりやすく見やすい紙面、ページを作成する。	→				
②	校区社協の活動支援	市社協		校区社協の活性化のために市社協職員が積極的に地域に出向き、福祉情報の効果的提供を行い、連携体制の強化に努める。	→				
③	新規事業の開発と実施(再掲)	市社協		住民ニーズにあった新規事業の開発と実施をする。	検討	→			

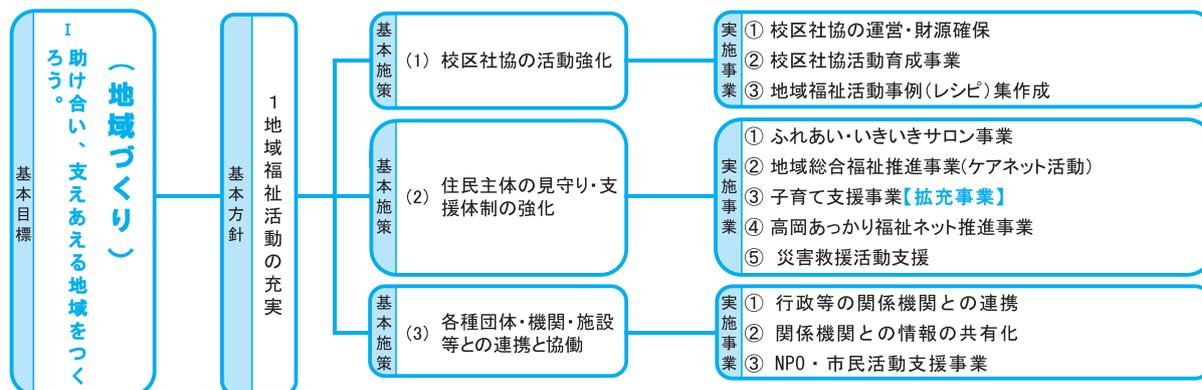
### (2) 共同募金運動の充実

番号	実施事業	事業主体	主たる協力団体等	事業内容	実施計画年度				
					28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
①	住民の参加や理解を得た募金活動の展開	市共同募金委員会	校区社協 民生委員児童委員 自治会	住民の参加や理解を得て、募金活動の展開を進める。	→				
②	共同募金助成審査委員会による適正助成の実施	市共同募金委員会	校区社協 民生委員児童委員 自治会	共同募金助成審査委員会において、助成について調査、審議し、適正な助成を実施する。	→				
③	募金の用途についてのPRの実施	市共同募金委員会	校区社協 民生委員児童委員 自治会	募金の趣旨を広く理解していただき募金の用途について透明性を図るためPRを実施する。	→				

## 4 地域福祉活動の展開

### I 基本目標（地域づくり）

助け合い、支えあえる地域をつくろう。



### 1 基本方針 地域福祉活動の充実

地域福祉には、地域に暮らし、活動している一人ひとりが互いに支えあい、助け合う地域づくり、仲間づくり、しくみづくりが大切で、地域ぐるみの福祉活動が必要です。

地域の絆や助け合いの精神を生かし、住民がお互いに助け合い、支えあえる地域づくりに取り組みます。

また、本市における地震や風水害、津波等の災害発生時に、迅速な災害救援ボランティアの受け入れ体制がとれるよう努め、安心・安全の地域づくりに取り組みます。

#### (1) 基本施策 校区社協の活動強化

高岡市内には、主に小学校区を単位として27の校下・地区社会福祉協議会(以下、校区社協)が結成されており、「ふれあい・いきいきサロン事業」や「地域総合福祉活動事業(ケアネット活動)」をはじめ、地域の特色を生かした各種事業に取り組んでいます。

また、市社協では、平成24年度から取り組んだ「高岡あつかり福祉ネット推進事業」を契機に、校区社協ごとに担当職員を決め、担当職員が地域に出向き各校区社協との連携を図るよう努めます。

## 【実施状況】

- ① 校区ごとに担当職員を決め、連携を図っています。
- ② 校区社協リーダーを育成するための研修会を開催しました。
- ③ 平成 26 年度に実施した地域福祉実践研究セミナー in とやまでの発表等全国規模の大会発表により住民の意識向上につながりました。
- ④ 27 校区社協の活動を掲載した地域福祉活動レシピ集を作成し、校区社協に配布しました。



## 【課題】

- ① 校区社協事業の維持継続について、地域に温度差があり、負担と捉える場合があります。
- ② 地域福祉活動レシピ集は、平成 26 年度末に全校区の情報をもとめ作成しました。レシピ集の周知不足と、「レシピ」の意味がわかりにくかったとの声がありました。



## 【今後の取り組み】

### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 地域の一員として、地域の情報を積極的に収集し、校区社協の活動内容を知り、協力、参加しましょう。

### 地域の取り組み

- ① 校区ごとに、自治会、民生委員・児童委員、福祉活動員、地域福祉コーディネーター等が地域の情報を共有し、地域の困り事の解決に取り組みましょう。

### 市社協の取り組み

- ① 市社協校区担当職員は、校区社協活動を行う地域に出向き、一緒に困り事を把握し、その解決に取り組むよう努めます。
- ② 地域福祉コーディネーターや福祉活動員の活動のため研修会を開催すると同時に校区社協内での内容周知をお願いし、校区社協の活動強化に努めます。
- ③ 校区の福祉活動の周知や後方支援のため、定期的に全校区の活動事例（レシピ）集を発行します。

## (2) 基本施策 住民主体の見守り・支援体制の強化

地域には、様々な福祉課題を抱えて生活している世帯があります。こうした世帯に対し、地域で暮らし、活動する一人ひとは、見守りや話し相手等の支援とともに、「高岡あつまり福祉ネット」を基盤とした医療・保健・福祉等生活を支援する関係者ともネットワークを築き情報を共有することで安心して生活できる地域づくりを進めます。

### ア 実施事業 ふれあい・いきいきサロン事業

ふれあい・いきいきサロンは、地域の公民館や集会所等、身近な場所を利用し、高齢者がいつまでも地域で元気に暮らしていくために、ともに過ごす「憩いの場」です。

サロンでの何気ない会話が、見守り・支え合いの地域づくりにも繋がっています。

#### 【ふれあい・いきいきサロン実施数の推移】

	実施校区社協 (校区)	実施サロン数 (箇所)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人数)
平成 22 年度	24	193	1,270	18,452
平成 23 年度	26	201	1,455	22,388
平成 24 年度	27	206	1,449	22,133
平成 25 年度	27	214	1,572	25,596
平成 26 年度	27	223	1,689	28,796

#### 【実施状況】

- ① 平成 24 年度からは市内すべての校区での開催に広がり、延べ人数・実施サロン数とも増加しています。
- ② サロン当日や、前後の訪問などを実施され、地域での見守りや福祉ニーズ把握の役目を果たしています。



#### 【課題】

- ①ふれあい・いきいきサロン事業にともなう地域での訪問や状況確認、相談などを他の福祉活動に広げることが必要になっています。
- ②参加者、運営者双方が楽しめる企画に困ることがよくあります。



## 【今後の取り組み】

### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 日頃から近所の人とあいさつし、関わりを持つようにしましょう。
- ② ふれあい・いきいきサロンの世話役と参加者が、一緒に地域で気軽に集うサロンを作りましょう。

### 地域の取り組み

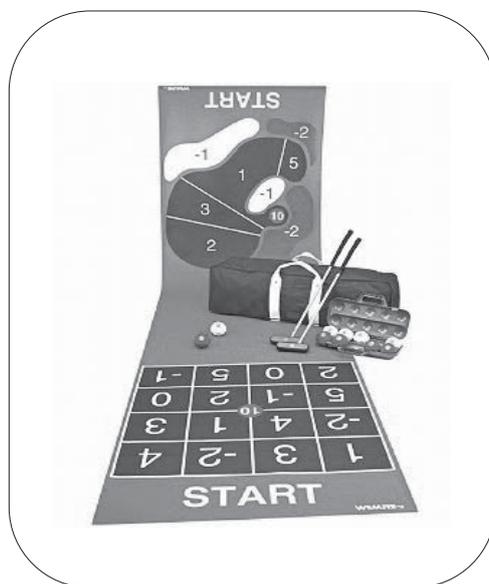
- ① ふれあい・いきいきサロンを地域づくりに活用し、継続のために、運営者の後継育成を目指します。また、サロンに参加しない方の対応を地域ごとに考えましょう。

### 市社協の取り組み

- ① ふれあい・いきいきサロンの企画・運営の工夫を学び合う機会を設け、校区での周知をよびかけます。
- ② 担当職員が現在活動中のサロンやこれから開設するサロンに、ボランティア情報の提供等必要な支援を行います。
- ② 平成 26 年度 223 箇所で開催しているサロンをさらに広め、実施サロン数が 300 箇所を超えるように努めます。



▲サロン研修会



▲サロンに貸し出しています。  
玉入れなどもあります。

## イ 実施事業 地域総合福祉推進事業（ケアネット活動）

市内全校区で、支援を希望する人を対象に、地域で暮らし活動している人がチームで支援する活動を行っています。

隣近所の人や福祉関係者などが、みんなで、それぞれができることを話し合いながら決めていきます。

### 【ケアネット活動実施数の推移】

	実施 校区 協数 (校区)	チー ム 数 (チー ム)	チー ム 参 加 人 数 (人)	対 象 人 数 (人)	ケアネット活動延回数 (回)				
					見守り 声掛け	話し 相手	ゴミ 出し	その他	計
平成 22 年度	27	183	385	183	13,115	4,711	1,286	2,550	21,662
平成 23 年度	27	163	314	163	13,162	5,267	1,534	1,759	21,722
平成 24 年度	27	185	348	185	16,905	4,694	1,614	1,821	25,034
平成 25 年度	27	203	398	203	17,679	4,822	1,353	1,558	25,412
平成 26 年度	27	212	397	212	17,077	4,741	1,206	1,241	24,265

### 【実施状況】

- ① 社会や家族のかたちが変わり、困り事が多様化しています。
- ② 家族がいても孤立している方がいます。



### 【課 題】

- ① 地域で暮らし活動する一人ひとりに、広くケアネット活動へ理解と協力をいただく必要があります。
- ② プライバシー情報や個人情報の保護との関連で、地域での情報共有ができにくいことがあります。
- ③ 支援に、手助けとお節介の境目が解らなくなることがあります。



## 【今後の取り組み】

### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 気がかりな世帯を地域の民生委員・児童委員や福祉活動員等に相談しましょう。
- ② 日頃から相談相手を作るように心がけましょう。

### 地域の取り組み

- ① 日頃から福祉ニーズの把握や見守りが必要な人の発見を心がけましょう。
- ② 地域の福祉関係者は、プライバシー情報や個人情報を地域で共有する際のルールを定めましょう。

### 市社協の取り組み

- ① ケアネット活動コーディネーターは、ケアネット活動の周知に努めます。
  - ② 個人情報保護法を理解し、地域の福祉活動に活用することに努めます。
  - ③ ケアネット活動を通して明らかになった地域課題について、関係機関と協働して、解決に努めます。
- ② 平成 26 年度 24,265 回実施したケアネットによる支援活動をさらに広め、ケアネット延べ回数が 25,500 回を超えるように努めます。

## ウ 実施事業 子育て支援事業【拡充事業】

核家族化や近隣との人間関係の希薄化が進行する中、育児に対し、不安や悩みを持つ親が増えています。子育て家庭を地域全体で支えるためには、地域の中で、子育て家庭が悩みや不安を相談し、子どもの成長を分かち合うことができる機会づくりを進めていく必要があります。

### 【実施状況】

- ① 平成 24 年度から、高岡市ファミリー・サポート・センターで開催されている地域懇談会に市社協職員も参加するなど、子育て家庭の抱える課題の把握に努めています。
- ② 平成 25 年度から、地域ぐるみで子育てをする環境づくりの推進を目的として、地域で子育てに関わる全ての方を対象とした「みんなで子育て研修会」を実施しています。



### 【課題】

- ① 子育て家庭が、子育てに関する不安や悩みを抱え込まないように、相談できる場の充実や子育て支援情報の効果的な提供が求められています。
- ② 子育てをする親の多様な働き方に応じた保育ニーズに対応していくことが、求められています。
- ③ 地域全体で子どもや子育て家庭を支えていく意識づくりが求められています。



## 【今後の取り組み】

### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 子育て中の親子で地域の活動に参加し、地域の中で交流できる場や話し相手を持ちましょう。

### 地域の取り組み

- ① 日ごろから近隣の住民同士でコミュニケーションを図り、地域全体で子育て家庭を見守る体制を推進しましょう。

### 市社協の取り組み

- ① 子育て家庭が身近な地域で、住民相互の交流や子育ての悩みを話すことができる場として、「子育てサロン」の充実に努めます。
- ② 高岡市ファミリー・サポート・センター等、子育て支援活動を行う団体と連携し、子育て家庭の抱える課題の把握・共有を行い、課題の解決に努めます。
- ③ 「みんなで子育て研修会」を引き続き開催し、地域ぐるみで子育て家庭を支えていく環境づくりの推進に向け、みんなで考える機会をつくります。
- ④ 子育て中のママが、一人だけで育児に悩むことがないよう、パパにも積極的に育児に参加してもらうため、パパ講座等の開催を検討し、パパが学び、パパ同士でも仲間づくりができるような機会づくりに努めます。



▲かんがるーまま



▲高岡市ファミリー・サポート・センター



## エ 実施事業 高岡あっさり福祉ネット推進事業

高岡市では、総合計画第2次基本計画（平成24年度～28年度）の中で、新世紀創造プロジェクトのひとつとして高岡型ネットワークづくりを進めることとしており、この事業をスタートさせました。

この事業では、大都市では失われつつあるが、高岡にはまだ残っている「お互いさまの心」「地域の絆」を生かすことを目的としています。

### 【実施状況】

- ① 平成24年度にモデル地区3か所を指定し、その後新たに取り組む地区を順次指定し、平成28年度で全地区（27地区）を指定することとしています。

指定地区では、地域住民の交流の機会や場の確保などを行い、その特性や地域課題に合った支援のしやすい体制づくりを進めています。



### 【課題】

- ① 地域における生活課題を発見し、解決につなげていくには、関係者の情報の共有が必要となっています。地域内だけでなく他地域との情報交換の機会をもつ必要があります。



### 【今後の取り組み】

#### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 地域で実施されている高岡あっさり福祉ネット推進事業の取り組みを知りましょう。

#### 地域の取り組み

- ① 地域の福祉・生活課題を解決できるようなアイデアをみんなで出し合い、自分たちが住んでいる地域を暮らしやすくするしくみづくりを目指しましょう。

#### 市社協の取り組み

- ① 高岡あっさり福祉ネットを通じて、地域の福祉課題を把握し、地域や行政と連携して解決に取り組めます。
- ② 実施地区懇談会を実施し、それぞれの地域での活動を通じて把握している情報と課題を共有できるよう支援します。



▲移動販売



▲安否確認

## オ 実施事業 災害救援活動支援

全国的に、地震や風水害、火山噴火、津波等の被災時においては、災害救援ボランティア等による活動は、大きな支援の一つとなっていることから、本市における災害発生時に、市を始め関係機関等と協力して、災害救援ボランティアの受け入れ体制が迅速に取れるように努めます。

### 【実施状況】

- ① 災害時における住民の要支援内容の把握や整理を行うことの大切さを校区社協へお願いしています。
- ② 高岡市の総合防災訓練にあわせ災害救援ボランティア本部を立ち上げ、救援ボランティアの受け入れ調整等の訓練を行っています。



### 【課題】

- ① 災害時の支援活動は、非常時のみでなく、日頃から高齢者、障がい者等の要支援者、要配慮者についての支援について把握しておくことや近隣住民の見守りや支え合いのネットワーク作りをしておくことが大切です。



### 【今後の取り組み】

#### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 地域の防災訓練に積極的に参加することに努めましょう。
- ② 日頃から、高齢者や障がい者等の要配慮者の把握に努めましょう。

#### 地域の取り組み

- ① 災害時の支援に備えて、日ごろから要支援者とのコミュニケーションを図り、生活状況等の情報を共有しましょう。

#### 市社協の取り組み

- ① 災害時に自分だけでは安全な場所に避難することが難しく、周りの人の支援が必要な高齢者、障がい者、子どもなどの把握や地域ぐるみの支援体制の構築の支援を行います。
- ② 災害救援ボランティア本部運営マニュアルの整備に努めます。



▲災害救援ボランティア本部立ち上げ

### (3) 基本施策 各種団体・機関・施設等との連携と協働

地域福祉の推進を図り、住みよいまちづくりを実現するには、行政、自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、女性団体、ボランティア、福祉施設等様々な組織、団体、個人が連携して地域福祉活動に参加できる環境をつくる必要があります。

#### 【実施状況】

- ① 健康なまちづくりマイスター育成事業にかかる保健・福祉関係者等研修会をきっかけに、校区社協と地域健康づくり推進懇話会や地域包括支援センターの職員等との情報交換の機会をもちました。



#### 【課題】

- ① 地域の中に様々な解決手段を持った団体・機関がありながら、お互いの役割や活動内容が十分に把握できていません。



#### 【今後の取り組み】

##### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 自分の住むまちの組織や団体・機関に関心を持ち、話し合いや交流の場があれば、活動内容等の把握に向け、積極的に参加するよう努めましょう。

##### 地域の取り組み

- ① 地域の中の他団体・他機関がどのような活動をしているのかを把握し、住みよいまちづくりに向け、協力しあえることがないか、話し合いの場をもちましょう。

##### 市社協の取り組み

- ① 地域の団体・組織がお互いの役割や活動内容を把握し、連携を深める話し合いの場が持てるよう協力していきます。
- ② 地域の社会資源を有効に結びつけるため、課題の解決に向けて、地域住民や団体・組織が連携しやすいように相互の交流や情報交換を支援していきます。

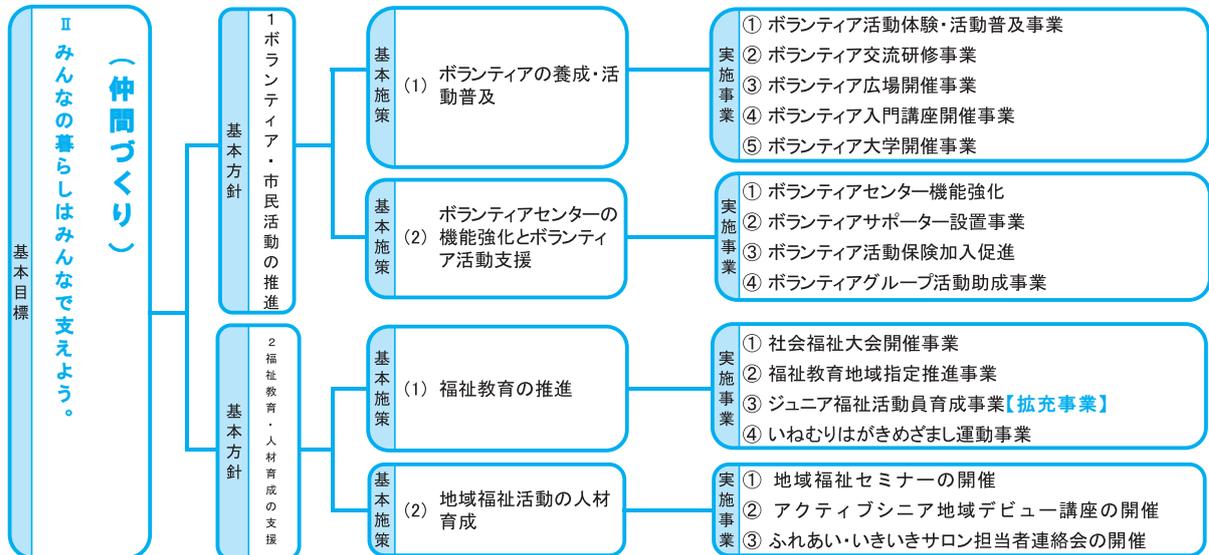


▲健康なまちづくりマイスター育成事業



## 基本目標（仲間づくり）

みんなの暮らしはみんなで支えよう。



### 1 基本方針 ボランティア・市民活動の推進

近年、社会環境は大きく複雑に変化し、人々の価値観やライフスタイルが多様化する中、公的な福祉サービスでは対応しきれない事例も増加しており、社会の変化する流れに応じた新たな地域福祉への対応が必要とされています。

このような中、誰もが、地域で自分の関心のあることを自分ができる範囲で取り組む身近なボランティア活動や市民活動など、市民一人ひとりの力を活かした地域社会を築くことが望まれます。

共に支え合う地域社会の形成に向けて、住民が自発的に活動に参加できるような環境づくりを進めていく必要があります。

#### (1) 基本施策 ボランティアの養成・活動普及

高岡市ボランティアセンターにおいて、住民の自己実現や自己啓発意欲の活性化を図るボランティアの入門講座や社会変化や地域ニーズに応じたボランティア講座等を開催し、地域で活動するボランティアの養成を更に努めます。

また、ボランティアにかかる情報を発信し、ボランティア意識の高揚や啓発普及に努めます。

### 【ボランティアグループ登録状況】

	グループ数 (グループ)	人 数 (人)		
		男	女	計
平成 22 年度	190	1,657	5,546	7,203
平成 23 年度	183	1,660	5,221	6,881
平成 24 年度	183	1,673	5,276	6,949
平成 25 年度	181	1,757	5,499	7,256
平成 26 年度	199	2,288	5,756	8,044

### 【実施状況】

- ① ボランティア入門講座やボランティア大学、アクティブシニア養成講座等を開催し、地域で活動するボランティアの養成に努めています。
- ② 市社協だよりの「ボランティア情報」でボランティア活動の紹介等を行いボランティア活動の啓発に努めています。



### 【課 題】

- ① ボランティア活動に対する関心を高め、誰でもボランティア活動に参加できる更なる取り組みや支援を進めていく必要があります。
- ② ボランティアの高齢化が進んでいます。幼少期からのボランティアに対する興味や学生、働く世代、企業等にも参加を呼び掛ける必要があります。



### 【今後の取り組み】

#### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 「ボランティア情報」やホームページ等により、活動を知りましょう。
- ② 市社協等が開催するボランティア学習の場へ積極的に参加することに努めましょう。

#### 地域の取り組み

- ① 地域のボランティア活動やボランティア学習の機会をみんなに伝える方法を考えましょう。
- ② 企業も地域社会の一員としてボランティア活動に取り組むとともに、従業員がボランティア活動へ参加しやすい環境を整備しましょう。

#### 市社協の取り組み

- ① 若年層や勤労者層、シニア世代など多様な層の人々にボランティア活動への参加を働きかけていきます。
- ② ボランティア活動をすることの楽しさややりがいをボランティア情報やホームページで発信していきます。

## (2) 基本施策 ボランティアセンターの機能強化とボランティア活動支援

ボランティアの形態や活動内容は多様化し、気軽に参加できる活動から、専門的な活動までさまざまな活動領域があることから、ボランティアに意欲のある住民が身近に気軽に参加や相談ができるよう、ボランティアサポーターの設置や、ボランティアが活動しやすい活動場所の提供・充実等に努めます。

また、ボランティアを必要としている人とボランティア活動をしたい人のニーズをうまくつなげるコーディネート機能の充実やボランティア活動を活性化するための助成等支援に努めます。

### 【実施状況】

- ① 27 校区社協に、ボランティア活動に意欲的な方を、2 年間の任期でボランティアサポーターとして委嘱し身近なところでの相談等に応じています。
- ② 高岡市ふれあい福祉センター2階にボランティア交流プラザを設置し、高岡市ボランティアセンターにボランティア登録したボランティアグループ及び個人がボランティア活動を進めるために無料で自由に利用できる空間やボランティア情報の提供を行っています。
- ③ ボランティアセンターが更に使いやすくボランティア活動の拠点となるようボランティアセンター運営委員会を設置し意見を聞いて活用につなげています。



### 【課題】

- ① 地域における新たなボランティアの発掘や児童・生徒のボランティア活動への参加機会を高める必要があります。
- ② ボランティアグループが安定した活動を継続する上で、活動費、会員の確保をする必要があります。
- ③ 市全体のボランティア活動の促進を図るためには、ボランティアグループが相互に連携交流に努める必要があります。



## 【今後の取り組み】

### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 地域にどのようなボランティア活動があるか調べてみましょう。
- ② 市社協等が開催するボランティア学習の場へ積極的に参加することに努めましょう。

### 地域の取り組み

- ① 地域のボランティア活動やボランティア学習の機会をみんなに伝える方法を考えましょう。
- ② 企業も地域社会の一員としてボランティア活動に取り組むとともに、従業員がボランティア活動へ参加しやすい環境を整備しましょう。
- ③ ボランティアサポーターと連携し、地域のボランティア活動を推進しましょう。

### 市社協の取り組み

- ① ボランティアサポーターが地域におけるボランティア活動の担い手となるよう育成を図り、地域活動の活性化に努めます。
- ② ボランティアセンターの適正で効率的な運営を図るために、ボランティア活動実践者をはじめ行政や校区社協関係者等で構成するボランティアセンター運営委員会を開催し、センター事業や機能の充実に努めます。
- ③ 市内のボランティアのボランティア活動保険加入の助成を始め、福祉活動ボランティアや新規ボランティアに助成等支援に努めます。
- ④ 高岡市内のボランティアグループが相互の連携を図り、ボランティア活動を推進するため組織された高岡市ボランティア連絡協議会等の活動の助成等支援に努めます。



▲ボランティア活動普及のための入門講座



▲ボランティアセンター交流プラザの利用の様子

## 2 基本方針 福祉教育・人材育成の支援

地域福祉活動を充実させていくためには、その地域に住む住民自身が問題に気づき、その解決に向けて自らが知恵を出し合い、行動していくことが求められます。こうした地域住民の行動を推進するための具体的な方法として「福祉教育」があります。

### (1) 基本施策 福祉教育の推進

福祉教育は「ともに生きる力」の形成を養うことを目的とした取り組みです。市社協では、社会福祉への理解と、ボランティア活動への参加を促進するために福祉教育やボランティア体験活動を推進しています。

#### 【実施状況】

- ① 小学生が民生委員や福祉活動員と地域福祉活動に参加するジュニア福祉活動員育成事業は、平成 30 年度で全小学校で実施となります。
- ② 従来から取り組んでいた地域福祉セミナーやふれあい・いきいきサロン研修会等についても継続して取り組み、地域福祉について学ぶ機会を提供しています。  
※平成 23 年～平成 27 年までの研修会の実施状況は【資料】研修会開催一覧のとおり



#### 【課題】

- ① 平成 30 年度でジュニア福祉活動員育成事業で全小学校の指定が終了した後も、引き続き、各校区で福祉教育に地域と学校が共に取り組んでもらえるよう働きかけていく必要があります。
- ② 核家族化により、高齢者と接する機会の少なくなった児童・生徒が、高齢者に尊敬する気持ちをもって接するよう、敬老関係の事業や三世代交流事業への積極的な参加を呼びかける必要があります。



#### 【今後の取り組み】

##### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 地域で行われているジュニア福祉活動員育成事業の取り組みに関心の目を向け、地域や行政が開催する福祉教育の機会に積極的に参加しましょう。

##### 地域の取り組み

- ① 行政等の実施する「出前講座」等を活用し、地域で福祉に関する学習の機会を設けましょう。

##### 市社協の取り組み

- ① ジュニア福祉活動員育成事業終了後も継続して各校区社協と小学校がともに福祉教育に取り組んでいられるよう検討し、働きかけていきます。
- ② 地域の中で、福祉に関する現状や取り組みを知り、福祉に関わる機会がより一層充実され、福祉について住民の理解や主体性が深まるよう、職員が地域に出向き、地域と共に福祉教育の推進に向け、取り組んでいきます。



▲ジュニア福祉活動員育成事業

## (2) 基本施策 地域福祉活動の人材育成

より多くの人たちが自分たちの住む地域に関わりを持ち、安心して住み続けるまちにするために、地域でリーダーとなる人材の発掘・育成をおこない市民互助による地域活動の普及を図ります。

### 【実施状況】

- ① 新たなニーズをもつ人々に対応する支援プログラムの開発のための人材育成として、「脳トレリーダー養成講座」を開催し、市民がボランティアで脳トレの普及に努めることを目的に人材育成を行っています。
- ② 高岡あっさり福祉ネット推進事業で下記のとおり人材養成事業を行いました。
  - ・地域福祉コーディネーター養成講座  
地域の福祉課題解決に向け、地域の中の多機関の連絡調整役を担う人材を養成するための養成講座
  - ・アクティブシニア養成講座  
定年期を迎えた団塊の世代が有する豊富な経験と知識を地域福祉活動に活かすための養成講座
- ③ 高齢社会の進行により、地域住民が主体的に在宅福祉・地域ケアを考え、行動する地域住民参加型の地域包括ケアシステム構築をめざし、「健康なまちづくりマイスター育成事業」を実施しました。



### 【課題】

- ① 地域の福祉活動を継続的に行っていくため、福祉活動を担う若い世代の人材育成が求められます。
- ② 福祉活動や地域福祉事業に関する理解を高め、活動・事業等に参加してもらえる人材を増やしていく必要があります。



### 【今後の取り組み】

#### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 自分の地域に関心を持ち、地域の中で行われている活動へ積極的に出向いていきましょう。

#### 地域の取り組み

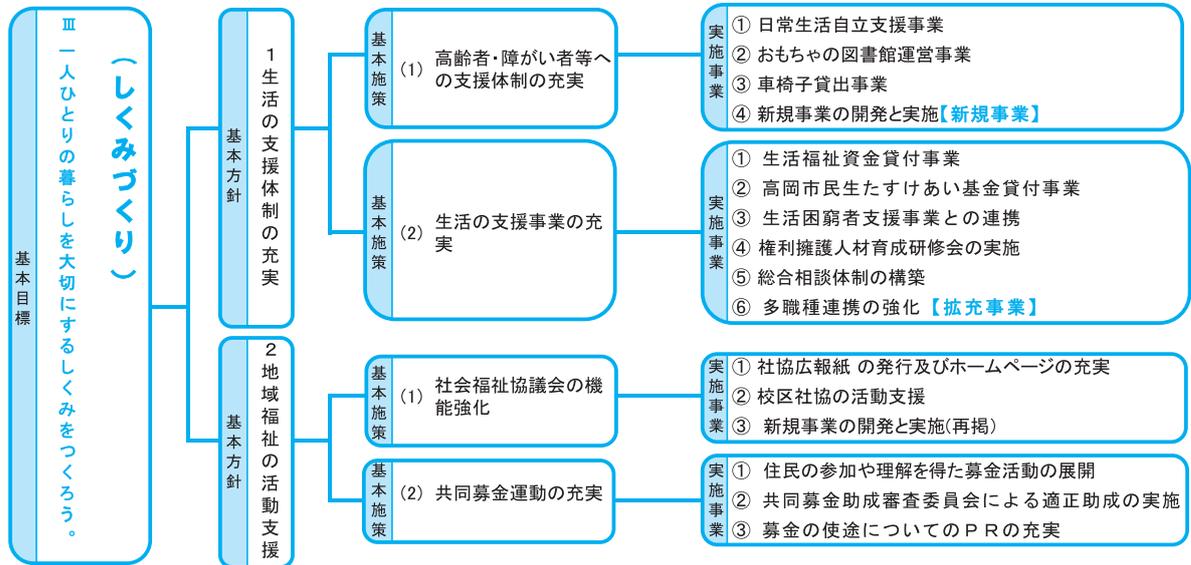
- ① 地域住民に自分の住むまちの抱える生活課題に気付いてもらう機会をもうけましょう。

#### 市社協の取り組み

- ① 制度の狭間に陥ってしまった人々、新たなニーズをもつ人々等に対する支援プログラムの開発および仕組みづくり、そのための人材育成に努めます。
- ② 福祉活動員の役割や活動状況を住民に広く周知します。



一人ひとりの暮らしを大切に作るしくみをつくろう。



## 1 基本方針 生活の支援体制の充実

ひとり暮らしや寝たきりの高齢者、障がい者等が住み慣れた地域で安心して暮らすためには様々な取り組みが必要になります。そのために、市社協の機能を充実し、サービスを必要とする人に適切なサービスが提供されるようにサービスの確保、情報提供、相談機能の充実等に取り組みます。

### (1) 基本施策 高齢者・障がい者等への支援体制の充実

市社協では、従来から日常生活自立支援事業や車いすの貸出の実施等の活動を続けてきました。

今後、ひとり暮らしや認知症の高齢者、一人親家庭、障がいのある方が増加する中、一人ひとりの生活に応じた支援の強化が必要となります。

## ア 実施事業 日常生活自立支援事業

福祉サービスを利用するためには、利用者が自分で選択し、サービスの提供者と契約を結んで利用する仕組みになっています。

一方、高齢者や障がいのある方で、一人で生活していくことに、不安のある人が増えています。

このため、日常生活自立支援事業では、福祉サービス利用の相談や、生活に欠かせないお金の出し入れを行う「定期訪問・金銭管理サービス」および預金通帳や印鑑等を金融機関の貸金庫で保管する「財産保全サービス」を行っています。

＜日常生活自立支援事業の業務件数の推移＞

※平成 24 年度までは、高岡地区(高岡市、氷見市、射水市の件数)

平成 25 年度からは高岡市のみ件数

### 【① 相談受付者数】

(単位：人)

	日常生活自立支援事業に関する相談				その他の事業に関する相談	合計
	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明		
平成 22 年度	982	355	374	205	2	1,917
平成 23 年度	1,961	485	943	149	193	3,731
平成 24 年度	2,532	499	913	126	381	4,451
平成 25 年度	2,182	339	816	20	190	3,547
平成 26 年度	1,693	885	905	156	55	3,694

### 【② 契約状況】

(単位：人)

	新規契約者数	解約者数	実利用者数
平成 22 年度	11	7	44
平成 23 年度	12	11	45
平成 24 年度	28	29 (移管者 22 人)	44
平成 25 年度	19	11	52
平成 26 年度	24	10	66

## 【実施状況】

- ① 平成 25 年度に県内全市町村社協に専門員を 1 名ずつ配置し、従来の基幹型社協実施方式から全市町村実施方式へと移行しました。
- ② 日常生活自立支援事業の利用者数が増加しています。特に障がいのある方の相談が大きく増加しています。
- ③ 障がいのある方の相談が増え、利用者の若年化が進んでいます。また、対象者だけではなく家族にも問題を抱えている世帯が増えています。



## 【課題】

- ① 判断能力の低下に伴い、本事業の対象から成年後見制度への移行が必要な人や、相談当初より成年後見制度の利用が望ましい人が増えています。
- ② 潜在化しているニーズの発掘や複合的な問題に対応するため、関係機関と密に連携を図る必要があります。



## 【今後の取り組み】

### 住民一人ひとりの取り組み

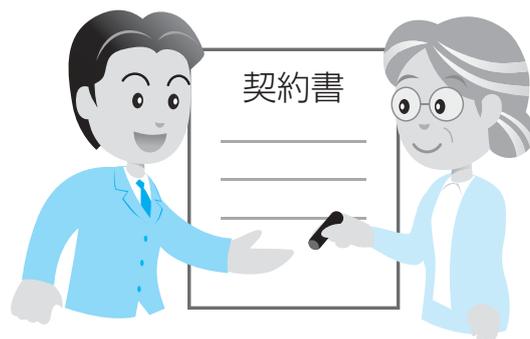
- ① 近隣住民の異変に気づいたら即時、民生委員・児童委員や地域包括支援センター・障害者相談支援センター等の各種相談機関に連絡しましょう。

### 地域の取り組み

- ① 地域住民が障がいについて学び、地域のネットワークを活用できるよう、民生委員・児童委員、各種相談機関と連携を図りましょう。

### 市社協の取り組み

- ① 日常生活自立支援事業の周知を行うとともに、利用者に寄り添いながら、利用の促進を図ります。
- ② 親亡き後の知的・精神障がい者等への支援として、成年後見制度について社協がどのように取り組み、活用するか、行政や当事者団体等とともに考えていきます。
- ③ 介護保険事業所や障害福祉サービス事業所等と連携し、対象者の包括的支援を行うことが出来るよう努めます。



## イ 実施事業 おもちゃの図書館運営事業

障がいのある未就学の子どもたちに、おもちゃの貸し出しや、遊び場の提供をすることで、おもちゃの素晴らしさと遊びの楽しさを知ってもらうとともに、その家族に出合いと触れ合いの機会を提供するよう努めます。

## ウ 実施事業 車椅子貸出事業

1ヵ月間車椅子を無料で貸し出し、高齢者や障がい者に限らず、怪我や病気の子ども、地域の防災訓練、福祉体験等に幅広く利用されています。

今後、より多くの方に事業を知っていただくために広報紙やホームページを通じて定期的に情報を発信し、周知を図ります。

## エ 実施事業 新規事業の開発と実施【新規事業】

既存の事業や活動の中から、あるいは地域の関係機関や他分野の組織との情報交換の中から、生活困窮者や買い物弱者や移動弱者など、制度の狭間のニーズを把握し、新規事業の企画検討を実施します。



▲おもちゃの図書館（高岡市ふれあい福祉センター2階）



▲新規事業の開発と実施



▲車椅子貸出事業

## (2) 基本施策 生活の支援事業の充実

人々の抱える福祉課題が複雑になっているため、地域でその人らしく暮らしていくには、個人の状況に応じたサービスが必要となってきます。そのため、医療・介護・住まい・見守りなど総合的な支援が必要であり、互いに協力しながら支えるしくみづくりが求められます。

### ア 実施事業 生活福祉資金貸付事業

生活福祉資金や高岡市民生たすけあい基金の貸付事業は、低所得世帯、障がい者世帯(身体・知的・精神)、および高齢者世帯に対し、必要に応じた資金貸付を行います。

また、民生委員・児童委員を通じて必要な援助・指導を行い、その世帯の経済的自立と生活意欲の助長ならびに在宅福祉・社会参加の促進を図り、安定した生活が送れるようにすることを目的としています。

平成 27 年 4 月には、多重債務、心身の障がい、失業、家族の介護など、複数の課題を抱える生活困窮者に対する包括的な相談支援や就労支援を行うことにより、自立の促進を図ることを目的とした生活困窮者自立支援法が施行され、本制度においても、より効果的に低所得世帯等の自立支援を図るために生活困窮者自立支援制度と連携した貸付を行うこととして、その見直しが行われました。総合支援資金と緊急小口資金の貸付にあたっては、就労支援をはじめ包括的な支援が必要であることから、就職が内定している者等を除いて生活困窮者自立支援制度における自立相談支援事業の利用を貸付の要件とすることになりました。

【生活福祉資金の借入相談や貸付件数の推移】 (単位：件)

	借入相談件数	貸付件数
平成 22 年度	2,080	94
平成 23 年度	1,548	48
平成 24 年度	1,531	47
平成 25 年度	1,489	51
平成 26 年度	1,052	49

### 【実施状況】

- ① 借入相談、貸付件数ともに減少傾向にあるが、世帯に複数の課題を抱える世帯が増加し、債務の額が大きいために貸付に至らないケースや、病気を抱えている介護が必要な家族が同居しているなど、資金の貸付だけで課題が解決しないケースが増えています。



## 【課題】

- ① 資金の貸付だけでなく、利用者の自立を支援するためには、生活・就労・債務整理等の多岐の分野にわたる総合的な支援や、支援の継続が必要となります。そのため、民生委員・児童委員、行政、ハローワーク、地域包括支援センター、医療機関等の関係機関が互いの制度や情報を共有できる連携体制のさらなる充実が求められます。
- ② 資金の貸付まで期間が空く場合や、資金の貸付の対象にならない場合に、緊急的な支援（食料などの提供等）ができる機関の把握や支援体制の整備が求められます。



## 【今後の取り組み】

### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 自分の住んでいる地域の民生委員・児童委員を確認しておくなど、どこでどのような相談が受けられるか事前に相談窓口を確認し、身近な人や民生委員などに普段から相談できる関係を築くことに努めましょう。

### 地域の取り組み

- ① 民生委員・児童委員や福祉活動員等と連携し、生活困窮者の情報を把握した際には、生活困窮者の支援を行う機関へ相談してみるよう、情報提供を行うことに努めましょう。

### 市社協の取り組み

- ① 民生委員・児童委員や行政、ハローワーク、地域包括支援センター、医療機関等の関係機関と連携し、貸付相談時から償還完了に至るまで情報交換を十分に行うことで、借受世帯へのより適切な支援活動を行います。
- ② 貸付の対象外になった世帯についても、他制度につないでいけるよう各種関係機関と話し合いの場を設け、互いの制度や役割について理解を深める機会を持ちます。
- ③ 民生委員・児童委員や関係機関の協力のもと、生活困窮者の発見や貸付事業の周知を図り、早期段階での相談・支援が行うことができるよう努めます。
- ④ 緊急的な支援（食料などの提供等）ができる機関の把握や支援体制の整備に努めます。

## イ 実施事業 総合相談体制の構築

住民が抱える生活・福祉全般の問題を、住民が身近な場所で気軽に相談することができるよう、福祉相談センターを設置し、民生委員・児童委員の協力を得た相談支援を行っています。

【相談件数の推移】 (単位：件)

	相談件数
平成 22 年度	126
平成 23 年度	90
平成 24 年度	116
平成 25 年度	79
平成 26 年度	66

## 【実施状況】

- ① 相談内容から、心配ごとや困りごとの原因を考え、各種福祉サービスにつなげることによって解決できないかアドバイスをしています。また、解決の糸口が引き出せない場合は、専門相談機関に紹介しています。
- ② 相談窓口や、電話番号が分からないという状況も多く見受けられるため、平成 25 年度には市社協内の相談窓口早見表を作成しました。



## 【課題】

- ① 様々な問題が複雑に絡んでいるような場合は、住民にいくつかの相談窓口を紹介する場合があります。



## 【今後の取り組み】

### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 行政や社協の広報紙等で、どこにどのような相談窓口があるか日ごろから把握しておくように努めましょう。

### 地域の取り組み

- ① 地域のサロンなどで、困りごとがあれば、相談窓口につなげることができるよう日常的に声をかけるような関係をつくるよう努めましょう。
- ② 何かに困っていることがわかったら、ご近所としてできることは手伝い、困難な事例は相談機関につなげましょう。

### 市社協の取り組み

- ① 複雑な相談に対して、住民が相談窓口をいくつも訪ねることがないように、行政、児童相談所、障害者相談支援センター、地域包括支援センター等多分野にわたる相談機関との連携を強化します。また、様々な相談に対応できるよう相談員の相談援助技術の向上を図ります。

## ウ 実施事業 多職種連携の強化【拡充事業】

地域の福祉ニーズが多様化、複雑化する中、様々な福祉課題の解決には、個人に対して専門職が一方通行で支援するだけでなく、地域の多様な社会資源が連携と協働で支える支援が必要です。

従来の福祉の枠を超え、行政、地域包括支援センター、相談機関などや、介護保険サービスにおける専門職、医療サービスの専門職をはじめ、地域の民生児童委員や福祉関係者などの支え合い資源など多職種の連携の強化が必要となっています。

## 2 基本方針 地域福祉の活動支援

社協は、ボランティアセンターをはじめ、ふれあい・いきいきサロン等の地域福祉活動、介護保険サービス、社会福祉施設の運営等幅広い事業を行っており、多様な福祉課題を集積しうる機能を有しています。今後、この機能を強化し、住民、各種団体や行政等と協働した地域福祉推進の体制を築いていくことが必要です。

### (1) 基本施策 社会福祉協議会の機能強化

誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進するために、積極的に地域へ関わり、住民および校区社協や関係団体と関係を築き、ニーズに沿った事業を企画実施することが求められています。

福祉のまちづくりを進めていくためには、住民の皆さんの社協への理解と協力が重要です。

今後は、社協の活動を知っていただくための情報提供や啓発活動を充実し、住民とともに地域のあり方を考え、課題解決を目指す社協づくりに努めます。

#### ア 実施事業 社協広報紙の発行及びホームページの充実

##### 【実施状況】

- ① 社協広報紙を年4回発行し、市内全戸に配布することで社協の活動を広報しています。
- ② ホームページを随時更新しています。



##### 【課題】

- ① 地域住民に、社協がどんなことをしているところなのか十分に伝わっていません。
- ② 情報提供が地域の福祉関係者にとどまり、住民全般には周知されていません。
- ③ 広報紙の内容が定型的になっています。



##### 【今後の取り組み】

###### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 広報紙やホームページを見て社協の活動を知り、関心を持ちましょう。

###### 地域の取り組み

- ① 近隣住民同士で積極的に情報交換や声かけを行い、社協の活動に参加しましょう。

###### 市社協の取り組み

- ① 関係者だけでなく、広く住民にも参加してもらえる地域福祉活動啓発のための事業を企画します。
- ② 社協の活動を多くの人に知ってもらうため、わかりやすく読みやすい広報紙の工夫やホームページによるタイムリーな情報提供を推進します。

## (2) 基本施策 共同募金運動の充実

近年、少子高齢化や核家族化の進展など社会構造・生活様式の変化、さらには大規模自然災害の頻発化など、共同募金に対するニーズもより幅広く多様化してきています。

特に、近年多くのNPOや自主的な市民グループの福祉活動が活性化するのに伴い、共同募金が貴重な活動資金として求められているため、地域福祉を推進していく民間財源としての役割を果たしていくために、共同募金運動の充実に努めます。

### 【実施状況】

- ① 各校区の自治会長・民生委員児童委員協議会長・社会福祉協議会長等を委員とする共同募金委員会を年2回開催し、推進計画・共同募金実施要領等について審議しています。
- ② 共同募金運動については、個別募金・街頭募金・学校募金等広く募金を呼びかけています。



### 【課題】

- ① 善意の寄付がどのように活かされているか充分理解されていません。
- ② 募金額の右肩下がりの流れに歯止めをかけ、上昇に転じるよう活性化を図る必要があります。



### 【今後の取り組み】

#### 住民一人ひとりの取り組み

- ① 広報等で共同募金の活動を知り、関心を持ちましょう。

#### 地域の取り組み

- ① 法人募金や街頭募金に参加し、共同募金運動に関わる機会を増やしましょう。

#### 市社協の取り組み

- ① 共同募金がいかに貴重な民間財源として福祉に活用されているかについて、理解浸透を図ります。
- ② 学校募金を通して、子どものころから運動に関わることを大切にしていきます。
- ③ 制度では対応できない住民主体で取り組む活動に活用されるよう勧めます。



▲街頭募金活動



▲助成金での活動



# 資料

研修会開催一覧	・・・ 45
高岡地区別世帯数男女別人口集計表	・・・ 46
「高岡あっかり福祉ネット推進事業」アンケート集計	・・・ 47
わたしのまちの福祉活動（レシピ集 3校区抜粋）	・・・ 55
高岡市地域福祉活動計画推進委員会設置要綱	・・・ 61
高岡市地域福祉活動計画推進委員会名簿	・・・ 62
高岡市社会福祉協議会役員名簿	・・・ 63



<研修会開催一覧> ● = 合同開催

研修会・会議・事業名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計
地域福祉活動計画策定			地域福祉活動計画の中間見直し		第2次地域福祉活動計画策定	
地域福祉活動計画策定委員会			推進委員会として1回		2回	3回
地域福祉活動計画作業部会			2回		4回	6回
地域福祉活動計画座談会	27回					27回
	27校区で実施/参加者1,011名					
	5/19	5/30	6/5	5/22	6/18	5回
校区社協会長研修会	「みんなでつくる地域福祉～みんなで知ろう地域のカ～」 報告者 成美校下社会福祉協議会 会長 尾崎 憲子 氏 NPO法人買い物くらし応援団 理事長 能崎 博 氏	「地域福祉ネットワークづくりを進めるために ～地域支え合い体制づくり事業の実践から～」 高岡市社会福祉協議会 福岡支所長 伊東 寿 氏	・事前アンケート集計結果報告 ・活動報告 ①立野地区社協「頼りのボトル」 ②戸出地区社協「いのちのバトン」 ③成美校下社協「小地域懇談会及び福祉マップ作製の取組	・グループワーク ①後継者不足の解消方法 ②他組織との連携をすすめるための方法 ③福祉ニーズの把握に向けた取組み 富山県社協地域福祉課・ボランティア振興課課長補佐 水井 勤	「障がいがあっても地域で暮らす ～あたりまえに、自分らしく～」 あしつきふれあいの郷 施設長 山本 純子 氏	
	28人	34人	37人	23人	19人	141人
高岡市社会福祉大会	「障害者福祉を通して最近の福祉を思う」 社会福祉法人セーナー苑 苑長 高木 英範 氏	「みんなで地域福祉を考える～高岡あつまり福祉ネット推進事業」 コーディネーター：高岡市社協 専務理事 萩下 昌弘 氏 ・「ずーっと住も、成美」成美校下社協 事務局長 藪 元昭 氏 ・「きめ細やかな支えあいの輪を広げよう」 定塚校下 地域福祉コーディネーター 金森 昌義 氏 ・「地域で支え合う中山間地域」福岡町地域社協会長 日和祐樹氏	「地域の防災力を高めよう！」 NPO法人レスキューストーカー 代表理事 栗田 暢之 氏	「赤い羽根共同募金はどう地域に活かされているの？ ～じぶんの町をよくするしくみを知ろう～」 富山障害児(者)父母の会こばと会高岡支部代表 尾崎順子氏 高岡市児童クラブ連合会事務局長 栗本 弘二 氏 太田校下健康づくり推進懇話会会長 濱井 絹子 氏 コーディネーター：富山短期大学福祉学科教授 関 好博 氏	「次の時代の福祉を考える」 ～高岡市が日本の福祉の開拓者に～ 社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長 炭谷 茂 氏	
	10/3	10/1	10/2	10/1	10/1	5回
地域福祉セミナー	「災害支援ボランティアと地域活動について」 富山県ボランティアセンター 所長 野田 智 氏	「住民参加で『つながり』づくりの実践を・・・」 桃山学院大学社会学部 教授 松端 克文 氏	「地域でともに支えあう福祉のまちづくり」 法政大学現代福祉学部 教授 宮城 孝 氏	「高岡市の発展を支える福祉」 社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長 炭谷 茂 氏	「地域でともに支えあう福祉のまちづくり」 NPO法人このゆびと一まれ理事長 惣万佳代子氏	
	11/7	12/1	11/15	●8/28～30	●12/7	5回
福祉活動員研修会	「精神障害・知的障害への理解とやさしい関わり方」 富山県国際大学子ども育成学部 講師 村上 満 氏	「富山型デイサービスに学ぶ福祉実践」NPO法人よりどころ仙田 智治 氏	地域支え合い体制づくり事業実施に伴い、各校区社協で開催	地域支え合い体制づくり事業の実施に伴い、各校区社協で開催	地域支え合い体制づくり事業実施に伴い、各校区社協で開催	266人
	●12/5	●10/25				5回
ふれあい・いきいきサロン研修会	活動紹介：見崎サロン 竹井 小夜子氏 今泉サロン 中川 宣子氏 「成果を高めるためのふれあいサロンの方法」 富山短期大学福祉学科 准教授 関 好博 氏	①実践を学ぶ 「懐かしい曲で盛り上がり！」川端 正夫 氏 「サロンで使えるレクリエーション」岩上 厚子 氏 ②グループ討議「情報交換会」	①「高齢者の方へ地震から身を守るために」引田 秀一 氏 ②「いきいき脳トレクラブの紹介」荒木 弘美 氏 ③「いますぐできるレク遊び」堀岡 麻美 氏	発表「となりのサロンの工夫を知ろう」 演習「レク指導はじめの一步」 福祉レクリエーションワーカー 堀岡 麻美 氏	「出かけてみよう！高岡」 高岡市観光ボランティアガイド 林 繁利 氏 「手遊び等福祉レク」 福祉レクリエーションワーカー 堀岡 麻美 氏	814人
	218人	198人	143人	122人	133人	814人
ケアネット研修会	「ケアネット活動を振り返る ～より地域を守る活動にするために～」 富山県社協地域福祉課 主任 宮崎 博嗣 氏	「富山型デイサービスに学ぶ福祉実践」 NPO法人よりどころ 仙田 智治 氏 「認知症高齢者との接し方」小杉爆笑劇団	ケアネット連絡会 7校区社協で実施	「高岡市の発展を支える福祉」 社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長 炭谷 茂 氏	「地域でともに支えあう福祉のまちづくり」 NPO法人このゆびと一まれ理事長 惣万佳代子氏	5回
	10/19	●10/25	2月～3月	●8/28～30	●12/7	5回
日常生活自立支援事業研修会	「精神障害・知的障害への理解とやさしい関わり方」 富山県国際大学子ども育成学部 講師 村上 満 氏	生活支援員情報交換会(グループワーク) 富山県社協地域福祉・ボランティア振興課 越村 幸平氏	事例発表 笠原 好子支援員 「知的障害をもつ人たちの理解」 NPO法人Jam自立サポートJam 所長 岡本 久子 氏	生活支援員情報交換会(グループワーク) 富山県社協地域福祉・ボランティア振興課 越村 幸平 氏	生活支援員事例検討会(グループワーク) 富山県社協地域福祉・ボランティア振興課 越村 幸平 氏	5回
	130人	11人	17人	22人	14人	194人
ジュニア福祉活動員	二塚小(3年目)、東五位小(3年目)、野村小(2年目)	野村小(3年目)、福岡小(1年目)	福岡小(2年目)、千鳥丘小(1年目)、太田小(1年目)	福岡小(3年目)、千鳥丘小(2年目)、太田小(2年目)	千鳥丘小(3年目)、太田小(3年目)、牧野小(1年目)	5回
	22校区	23校区	25校区	25校区	26校区	26校区
先進地視察研修	10/20～10/21 社会福祉法人大野市社会福祉協議会	10/25～10/26 社会福祉法人飯田市社会福祉協議会	10/17～18 社会福祉法人郡上市社会福祉協議会	10/16～17 社会福祉法人飯山市社会福祉協議会	11/13 社会福祉法人高山市社会福祉協議会	5回
	26人	23人	22人	26人	26人	122人
校区社協会長会議	9/2 社会福祉大会、先進地視察、ボランティア広場について	9/3 社会福祉大会、先進地視察、ボランティア広場について	9/4 社会福祉大会、先進地視察、ボランティア広場について	9/2 社会福祉大会、先進地視察、ボランティア広場について	9/4 社会福祉大会、先進地視察、ボランティア広場について	5回
	27人	27人	27人	27人	23人	131人
校区社協事務担当者会議	3/27	3/18	3/10	3/10	3/9	5回
地域支え合い体制づくり事業	福岡モデル事業	定塚・成美・福岡モデル事業	下関・木津・川原・戸出・福田・国吉	二上・中田・能町・野村・二塚・佐野	平米・西条・伏木・牧野・立野・太田	163人
地域福祉コーディネーター養成講座		3校区	9校区	15校区	21校区	21校区
アクティブシニア養成講座		6回	4回			10回
		39人	69人			108人
		6回	4回			10回
		29人	50人			79人
市民後見人養成講座			11/11、18、21、25、28の5日間	11/10、13、17、20、27の5日間	2/22、29、3/3、10の4日間	3回
			修了者29人	修了者23人	修了者20人	修了者72人
みんなで子育て研修会			活動報告「ファミリーサポートセンター」戸出地区社協 講演「子どもの育ちと子育て支援」 講師：富山短期大学 副学長 小柴 隆 氏	活動報告「かんがる一ままでの取組みから」江尻 紀子 氏 講演「地域での“やさしい”子育て支援について」 講師：富山国際大学子ども育成学部 准教授 村上 満 氏	「パパの子育てがママと子どもと地域の笑顔に！」 NPO法人ファザーリングジャパン理事 マザーリングプロジェクトリーダー 高祖 常子 氏	3回
			124人	73人	62人	259人
健康なまちづくり(地域医療再生)マイスター育成事業				12/1・12/15	7/8・8/5・8/28	2回
				①「地域における10年後を創造する」 富山県高岡厚生センター所長 守田 万寿夫氏 ・グループワーク「地域活動の現状と課題について」 ②「南砺市と南砺市民病院での地域包括医療・ケアの取組み」 南砺市地域包括課 顧問 南 真司 氏 ・グループワーク「地域での保健・福祉に関する取組みについて」	①「虚弱高齢者とは？「健康」と「病氣」のあいだから」 東京ミッドタウンクリニック・シニア医療部 部長 大蔵 暢 氏 ②「自己開発法、四面思考法 自分ごとで働く・成功の宣言文」 北陸先端科学技術大学院大学 客員教授 近藤修司氏 ③受講証書授与：富山大学附属病院総合診療科教授 山城 清二 氏	
地域福祉実践研究セミナーinとやま				●8/28～30		1回
				「高岡市の発展を支える福祉」 社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長 炭谷 茂 氏		170人

## 高岡市 地区別世帯数男女別人口集計表

資料：高岡市（H28. 1. 31現在）

地名	人 口			世帯数
	男	女	計	
平 米	1,567人	1,789人	3,356人	1,594世帯
定 塚	4,430人	4,942人	9,372人	3,982世帯
下 関	4,443人	4,583人	9,026人	3,959世帯
博 労	3,126人	3,472人	6,598人	2,840世帯
木 津	2,775人	3,001人	5,776人	2,152世帯
横 田	2,810人	3,043人	5,853人	2,295世帯
西 条	3,400人	3,546人	6,946人	2,676世帯
川 原	1,531人	1,714人	3,245人	1,327世帯
成 美	3,861人	4,383人	8,244人	3,508世帯
二 上	1,269人	1,363人	2,632人	1,009世帯
伏 木	5,332人	5,920人	11,252人	4,446世帯
戸 出	6,739人	6,888人	13,627人	5,001世帯
中 田	3,015人	3,257人	6,272人	2,234世帯
能 町	5,663人	5,878人	11,541人	4,478世帯
牧 野	4,696人	4,911人	9,607人	3,483世帯
野 村	8,496人	9,041人	17,537人	6,991世帯
二 塚	1,765人	1,875人	3,640人	1,228世帯
佐 野	2,636人	2,889人	5,525人	1,994世帯
福 田	1,313人	1,349人	2,662人	905世帯
小 勢	474人	490人	964人	275世帯
立 野	1,577人	1,717人	3,294人	1,183世帯
東五位	2,372人	2,548人	4,920人	1,715世帯
石 堤	608人	615人	1,223人	436世帯
国 吉	1,714人	1,829人	3,543人	1,197世帯
守 山	1,253人	1,372人	2,625人	926世帯
太 田	1,209人	1,379人	2,588人	893世帯
福 岡	6,321人	6,631人	12,952人	4,409世帯
合 計	84,395人	90,425人	174,820人	67,136世帯

※地区名については、高岡市の表記に準じる

## 「高岡あっさり福祉ネット推進事業」アンケート集計

高岡市では、総合計画第2次基本計画（平成24年度～28年度）の中で、新世紀創造プロジェクトのひとつとして高岡型地域福祉ネットワークづくりを進めることとしており、平成24年度より「高岡あっさり福祉ネット推進事業」をスタートさせました。

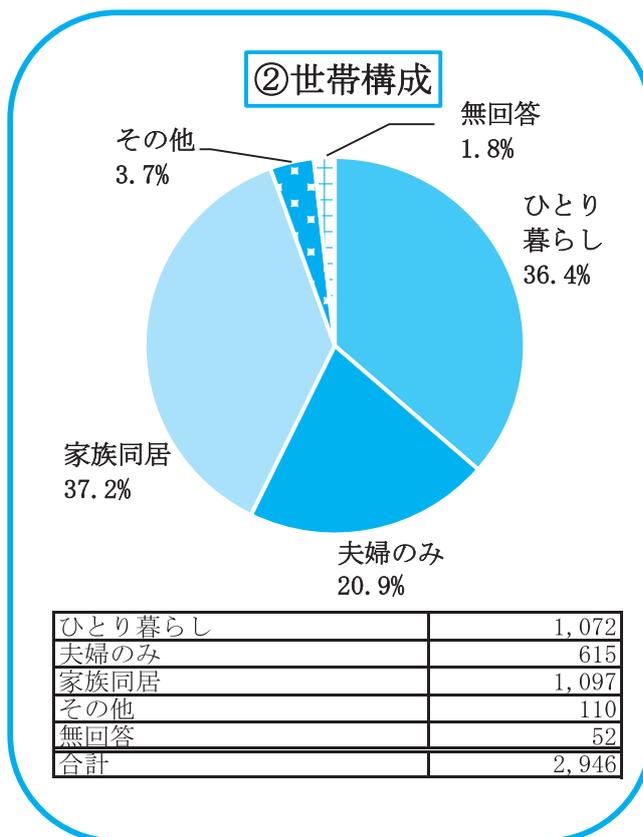
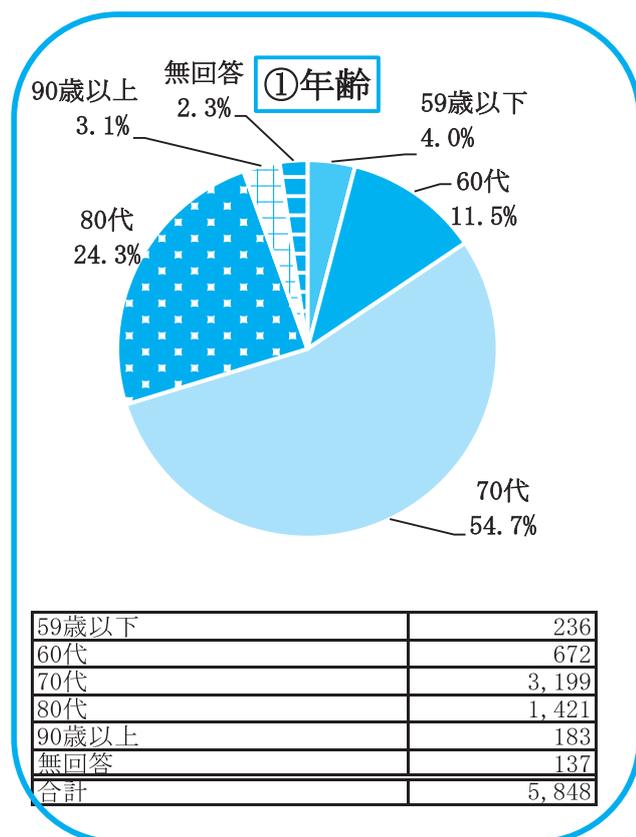
この事業では、大都市では失われつつあるが、高岡にはまだ残っている「お互いさまの心」「地域の絆」を活かし、高岡型地域福祉ネットワークの構築を図ることを目的としています。

各地区では、地域の福祉・生活課題の洗い出しのため、訪問アンケート調査などを実施しました。

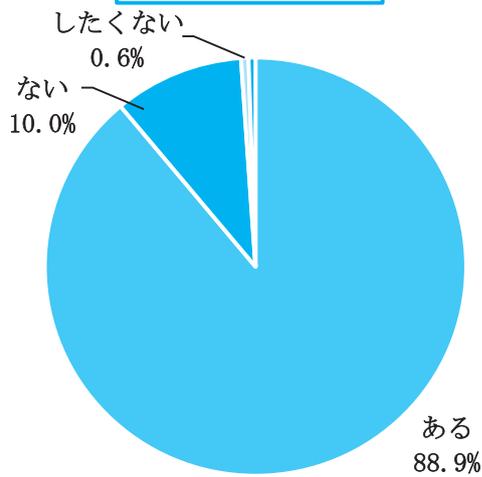
アンケート調査の調査対象については、70歳以上とした校区や障がい者、子育て世代など、調査項目については、各校区で検討され地域ごとの特性のある調査を実施され、その結果についてまとめています。

調査項目によって調査数にばらつきがありますが、第2次地域福祉活動計画の作成のため集計しました。

（調査回答数 7,672人）

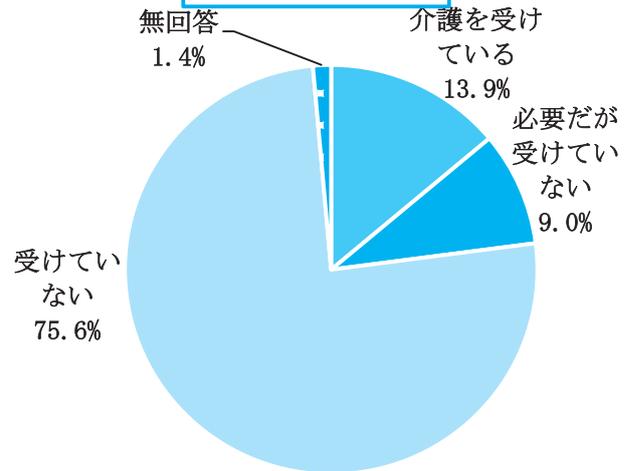


### ③近所付き合い



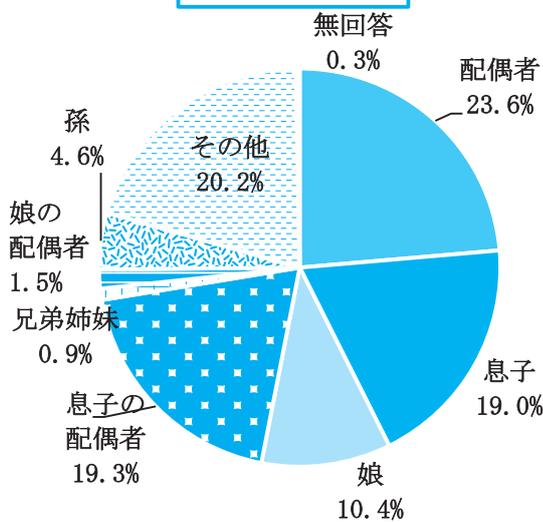
ある	2,665
ない	299
したくない	17
無回答	16
合計	2,997

### ④介護の必要性



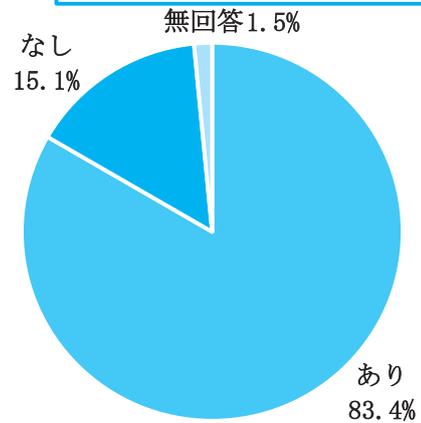
介護を受けている	216
必要だが受けていない	140
受けていない	1,174
無回答	22
合計	1,552

### ⑤主な介護者



配偶者	77
息子	62
娘	34
息子の配偶者	63
兄弟姉妹	3
娘の配偶者	5
孫	15
その他	66
無回答	1
合計	326

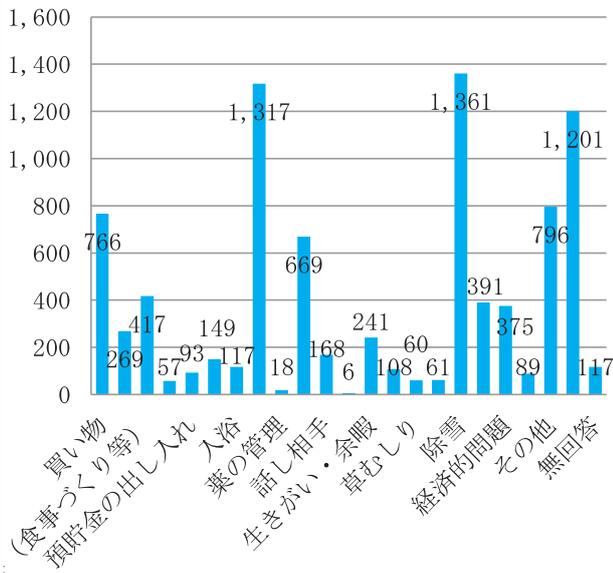
### ⑥治療中の病気の有無



あり	1,309
なし	237
無回答	24
合計	1,570

### ⑦困りごと、不安

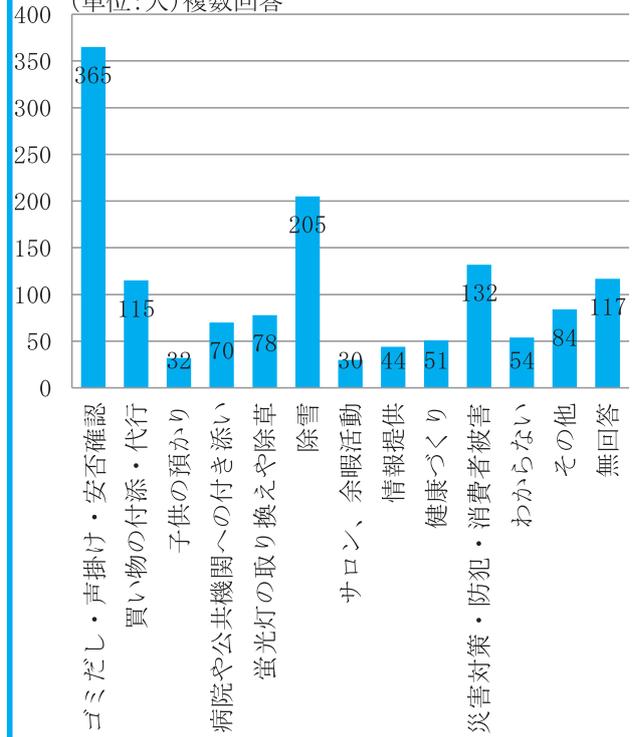
(単位:人)複数回答



買い物	766
ゴミだし	269
家事(食事づくり等)	417
生活問題	57
預貯金の出し入れ	93
市役所の手続き	149
入浴	117
健康	1,317
薬の管理	18
通院・外出	669
話し相手	168
見守り	6
生きがい・余暇	241
近所づきあい	108
草むしり	60
軽作業	61
除雪	1,361
家族(介護・育児など)	391
経済的問題	375
災害	89
その他	796
なし	1,201
無回答	117
合計	8,846

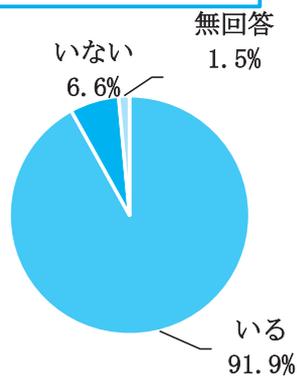
### ⑧地域、地区社協で手伝ってほしいこと

(単位:人)複数回答



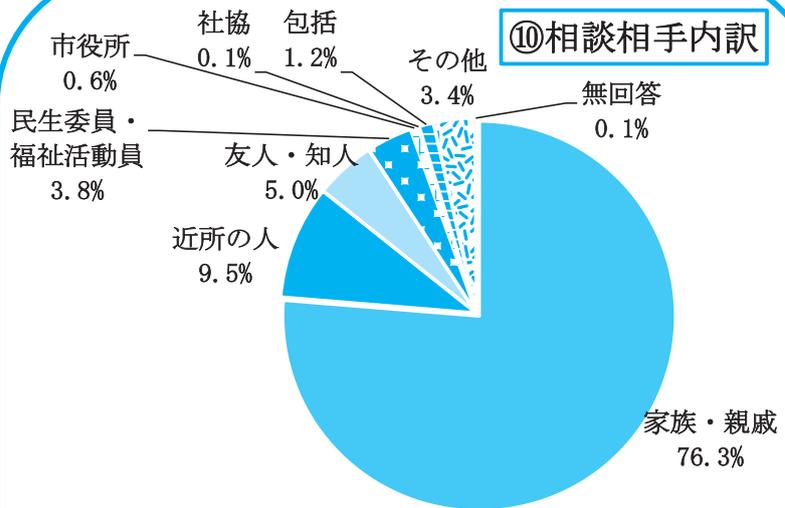
ゴミだし・声掛け・安否確認	365
買い物の付添・代行	115
子供の預かり	32
病院や公共機関への付き添い	70
蛍光灯の取り換えや除草	78
除雪	205
サロン、余暇活動	30
情報提供	44
健康づくり	51
災害対策・防犯・消費者被害	132
わからない	54
その他	84
無回答	117
合計	1,377

### ⑨相談相手の有無



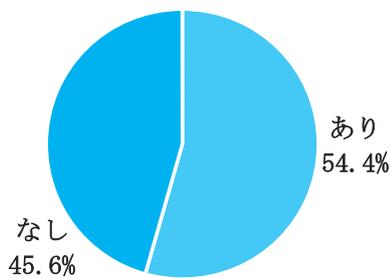
いる	2,214
いない	159
無回答	35
合計	2408

### ⑩相談相手内訳



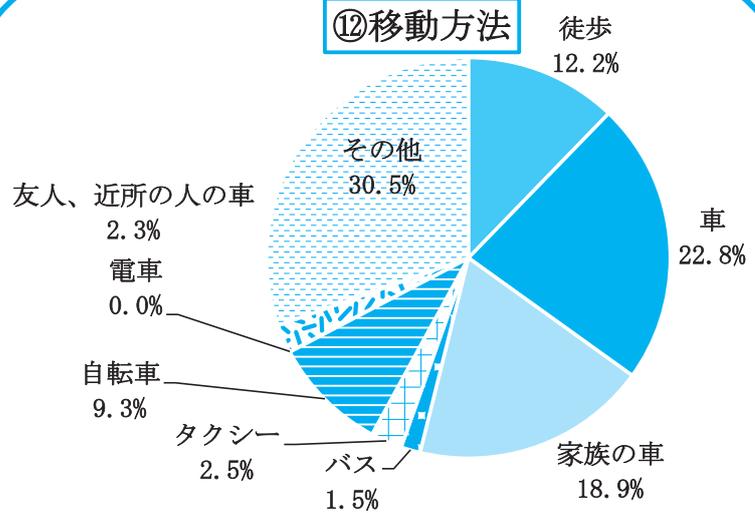
家族・親戚	5,060
近所の人	627
友人・知人	333
民生委員・福祉活動員	250
市役所	42
社協	7
包括	80
その他	224
無回答	8
合計	6,631

### ⑪携帯電話の有無



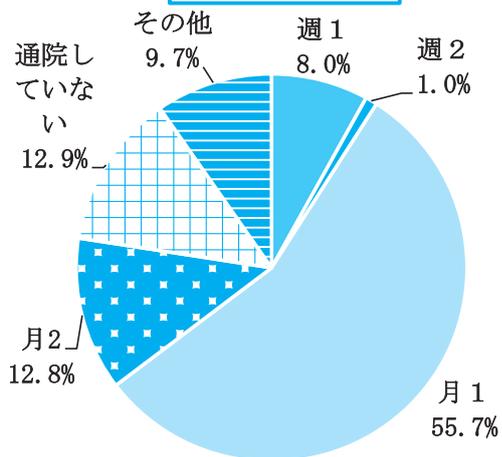
あり	2,310
なし	1,937
合計	4,247

### ⑫移動方法



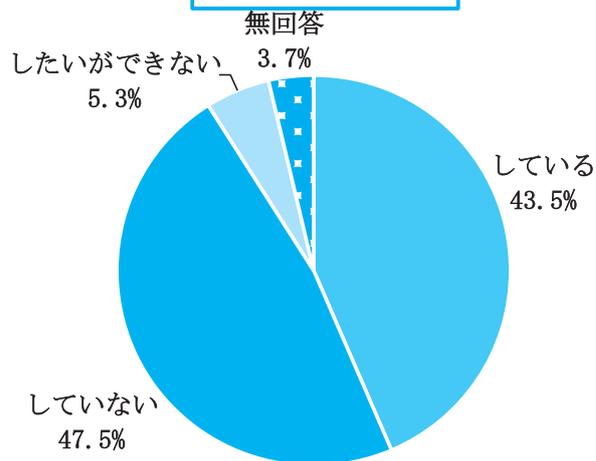
徒歩	608
車	1,134
家族の車	941
バス	77
タクシー	125
自転車	465
電車	1
友人、近所の人	113
その他	1,518
合計	4,982

### ⑬通院の頻度



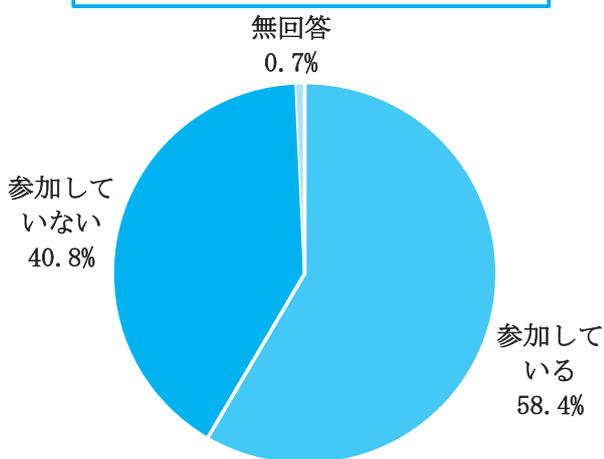
週1	108
週2	13
月1	748
月2	172
通院していない	173
その他	130
合計	1,344

### ⑭自治会の役割



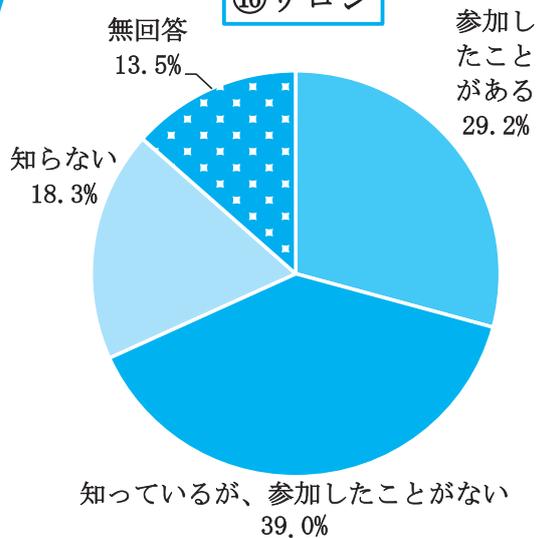
している	354
していない	386
したいができない	43
無回答	30
合計	813

### ⑮老人会、自治会等行事への参加



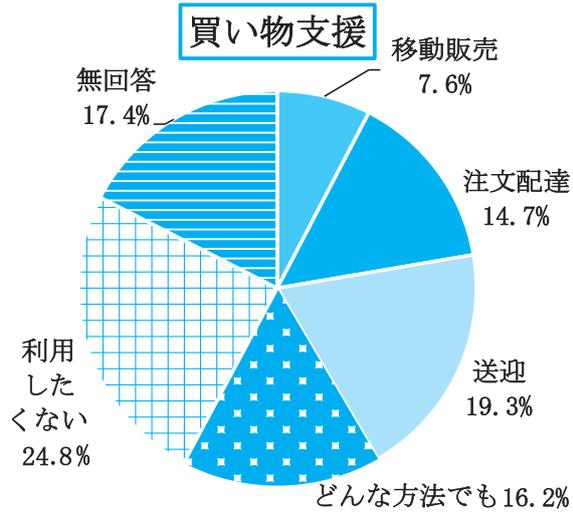
参加している	1,055
参加していない	737
無回答	13
合計	1,805

### ⑯サロン

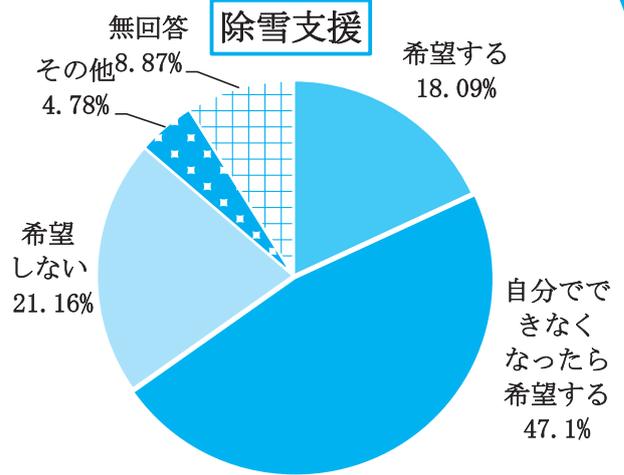


参加したことがある	526
知っているが、参加したことがない	701
知らない	330
無回答	242
合計	1,799

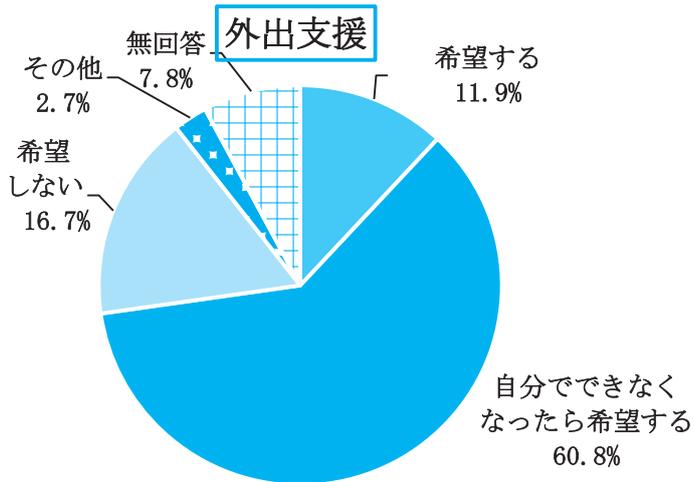
⑰どんなサービスの利用を希望しますか。



移動販売	45
注文配達	87
送迎	114
どのような方法でも	96
利用したくない	147
無回答	103
合計	592

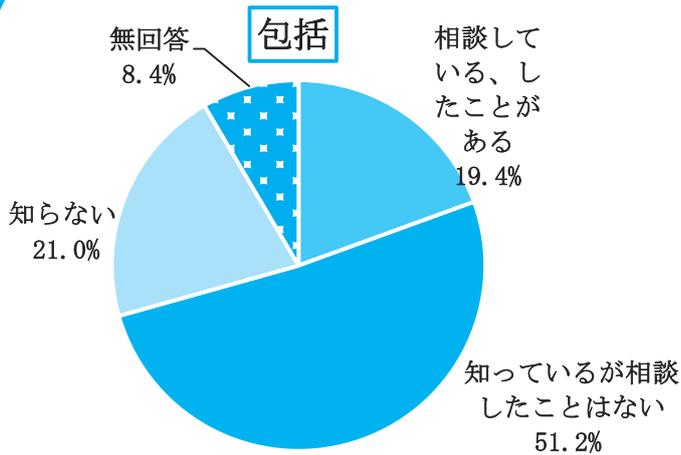


希望する	106
自分でできなくなったら希望する	276
希望しない	124
その他	28
無回答	52
合計	586

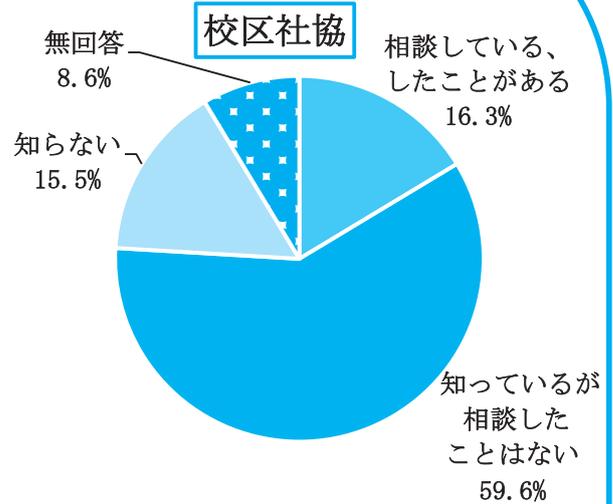


希望する	70
自分でできなくなったら希望する	357
希望しない	98
その他	16
無回答	46
合計	587

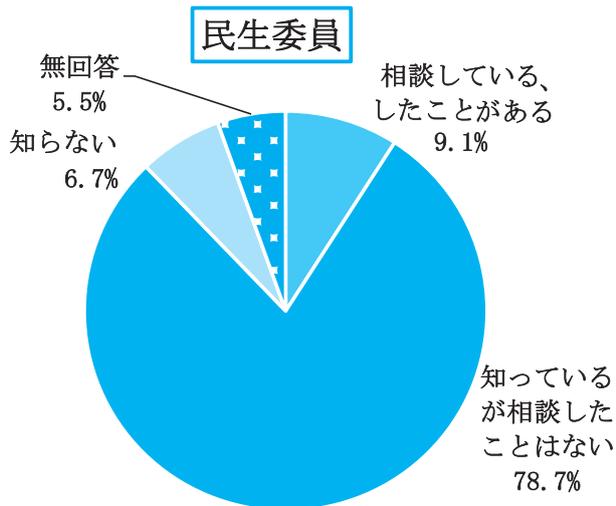
### ⑱関係機関の利用状況



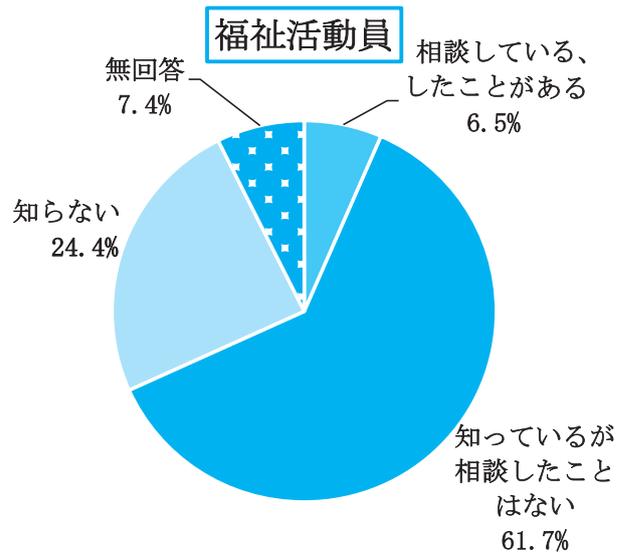
相談している、したことがある	113
知っているが相談したことはない	298
知らない	122
無回答	49
合計	582



利用している、したことがある	95
知っているが利用したことはない	347
知らない	90
無回答	50
合計	582



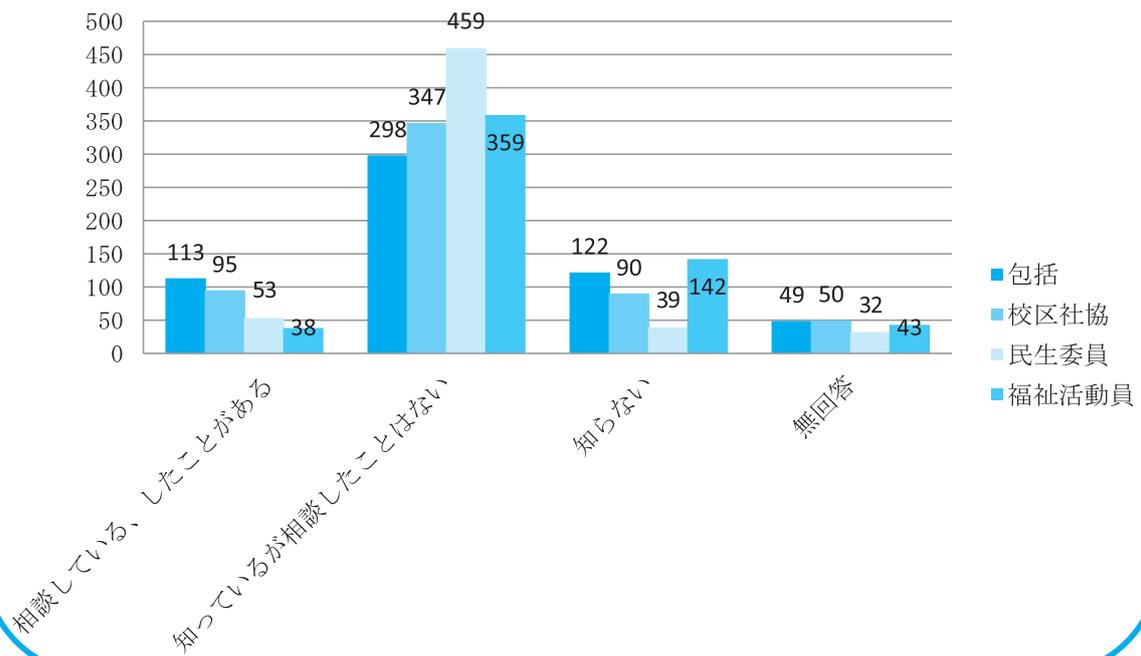
利用している、したことがある	53
知っているが利用したことはない	459
知らない	39
無回答	32
合計	583



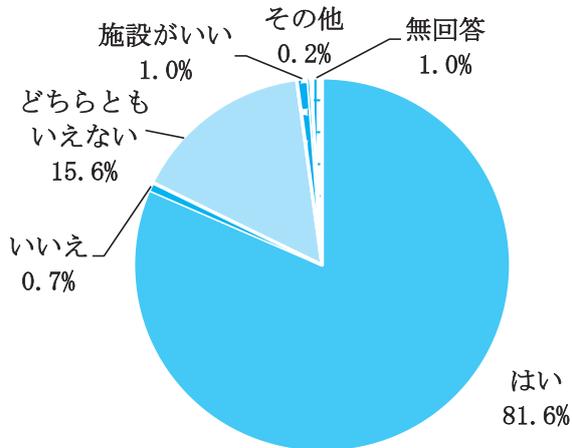
利用している、したことがある	38
知っているが利用したことはない	359
知らない	142
無回答	43
合計	582

(単位:人)複数回答

### ⑱ 関係機関利用状況比較



### ⑳ 今後もこの校区に住み続けたいか



はい	2,206
いいえ	19
どちらともいえない	422
施設がいい	26
その他	6
無回答	26
合計	2,705

## 子育て支援事業活動紹介

戸出地区社会福祉協議会 会長 新納 耕一

### 活動の概要

当地区では、「高岡あっさり福祉ネット推進事業」の取り組みを機会に、社会福祉協議会構成団体より、10名の方に参加いただき、地域福祉推進委員会を立ち上げ当事業の展開を図りました。取り組みに当たり、少子化、核家族化、近隣との人間関係の希薄化、家庭内での養育機能の低下等言われている現状をふまえ、子育て支援を重点課題としました。

小さい子の成長には、世代間交流の場が何より大切と考え、下記の3つの活動に取り組むことにしました。

#### （1）赤ちゃん広場

生後3ヶ月から1歳未満の乳児とその親を対象に例年開催されてきた。この活動に、ネットワークづくりを併せ持たせ、中学生ボランティアや近所のおばあちゃん方にも参加していただく。

何と言っても、赤ちゃんは地域の宝であり、国の宝です。直接にふれあう中で、命の尊さ、可愛さ、人のぬくもり等、何かを感じ取ってもらいたいと考えました。体験を通じて感じたことは、今後の成長に生かされると確信している。



#### （2）親子料理教室

戸出コミュニティセンターの和室と調理室を使用し、親子三代と中学生ボランティアが集い、食生活改善推進員の協力のもと、食生活の大切さを学ぶ。健康増進課の管理栄養士さんの指導のもとに、教え、教えられながら料理づくりを楽しむ。

食事は、料理をゆっくり味わいながら、会話も楽しむ。食後は、食育に関する`かるた取り`を行い、料理に関する知識やノウハウを楽しく学ぶ。



### (3) 親子ふれあいあそび

戸出児童センターにおいて、3歳未満児の親子（お父さんは大歓迎）を対象に取り組んでいる。

保育士や講師の指導のもと、一緒に物作りをしたり、遊んだりして、ふれあうこと、心を通わせることを体験する。

日曜日の開館を利用し、平日なかなか参加できないお父さんに、親子のふれあいや育児の仲間づくりの機会を提供し、子育てへの積極的な参加につながれば良いと考えている。



### 活動にあたっての苦心・工夫点

- ・イベント終了後、アンケートを実施し、次回からの内容の工夫や充実に努めている。
- ・年度末に意見や情報交換の場を設け、地域のコミュニティづくり、皆で活動に携わるという心がけ、意識の高揚に努めている。

### 活動の進め方

- ・母子保健推進員、食生活改善推進員ほか各種団体独自の活動だけでなく、一緒に取り組むことにより、相乗効果が得られる円滑なネットワークづくりに努める。
- ・中学生ボランティアには、学業に支障のない範囲で参加をお願いし、実際に体験してもらうよう努め、自分が住む地域に目を向ける機会とする。

### 活動の課題・対応策・今後に向けて

- (1) 地区内の施設・設備を如何に有効に利用するか。
- (2) 地域住民の絆を如何に深め、意識の高揚を図るか。
- (3) 今後は、各活動に積極的に取り組み、お互いの信頼関係の構築に努める。

戸出地区のデータ（平成27年 3月 1日現在）住民基本台帳より

人口 13,619人

世帯数 4,851

65歳以上人口 3,977人

高齢化率 29.2%

事務局（連絡先）

〒939-1104 高岡市戸出町2丁目13-4 戸出コミュニティ団体事務局

電話 63-1253 FAX 63-1239

安全で安心のできる地域福祉体制作りの一策として

## 頼りのボトル（医療情報）配付

立野地区社会福祉協議会 会長 嶋田 清光

### 活動のきっかけ・目標

- 私たちを取り巻く社会環境は、少子高齢化、核家族化が急速に進み、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの老々世帯が増えているとともに、家族、近隣のつながりが希薄になっている。このような現況にあって、一刻を争う救急搬送が頻発する傾向にあります。
- 救急車を要請する緊急非常時では、往々にして本人は意識不明、周囲の家族も気持ちが動転していて、搬送される方の医療情報や家族等への連絡事情を得るに、時間を取ることがあって、悲惨な事態が懸念されます。
- このような事態を危惧し、緊急非常時の救急救護を円滑・スムーズにして救命の向上、治療後遺症の軽減を図る一策として、以前から新聞記事を見て、福祉活動に意義のあるものに関心を持っていた「命のバトン」に習い、その仕組みを導入し、地域の皆さんが安心して心豊かな日々を過ごしていただく地域福祉体制作りに取り組むこととしました。
- 平成 24 年 10 月高岡市内、他校区に先駆け、一早く立野地区に住む 70 才以上の方宅に「頼りのボトル」と名付けた専用の容器を配付・配備し、緊急非常に対処することとしました。

### 活動にあたっての苦心・工夫点

- この仕組みは、救急患者の医療情報等を入れておく「頼りのボトル」と名付けた専用の容器を災害時でも壊れにくい各家庭にある冷蔵庫の中に入れ、災害時に必要とされる情報を救急隊員などが発見しやすいよう冷蔵庫にラベルを貼って保管して置くものです。
- この仕組みを導入し、配備するにあたり、ボトルの調達、ラベルの作成等に経費の節減もあって 100 均の店や印刷屋を奔走する等いろいろと模索。早々に県内で先進の射水市役所や射水の寺塚原自治会長宅に日参する等して、仕組みのノウハウやボトルの調達等について学び、地区社協の役員・活動員のみんなが一体となって配付・配備に努めました。



## 活動の進め方・PRの方法など

- この「頼りのボトル」配付の作業が整った段階で、地区自治会の定例会の席上において「ボトル」配付の要旨を説明し、地区の各諸団体の方々に周知・徹底をはかるとともに、今回当面配付対象とした70歳以上の集いである「お達者クラブ」、「敬老会」の集いの会場で活用法を啓蒙しました。
- 関係のみなさんに配付、配備できたところで高岡消防署はじめ、立野地域を所管する福岡消防署、西高岡消防分団に出向き、「ボトル」を配付配備した立野地区の福祉体制を伝え、救急・救護の支援をお願いしてきました。
- 併せて、高岡市高齢介護課・高岡市社会福祉協議会にも出向きました。



## 活動の課題・対応策・今後に向けて

- 当面は70歳以上の高齢者宅に配付・配備することとし、毎年度初めに対象家庭を調査確認し、新規配付するとともに「ボトル」に入れておく「医療情報」シートも配付してデータの見直し確認をして常に新しいものにして置くようにしています。
- 年度初めは町内会長・福祉活動員の方々が交代される時期でもあり、町内の現状を認識把握していただく良い機会ではありますが、事務的に若干煩雑なところもあり、地区の福祉体制のより充実をはかるために「高岡あっかり福祉ネット推進事業」の推進の一索として立野地区全家庭への配備を考えています。
- このようにして、心身の異常、緊急時の迅速な人命救助に対応する福祉体制を進め、地区のみなさんが安心して心豊かな日々を過ごしていただくよう努めて参ります。

## 立野地区のデータ（平成27年 3月 1日現在）住民基本台帳より

人口 3,281人                      世帯数 1,171  
65歳以上人口 1,004人              高齢化率 30.6%  
事務局（連絡先）〒933-0325 高岡市立野 2,897  
電話 31-0187

## にぎやか広場と買い物支援活動について

福岡町地域社会福祉協議会 会長 日和 祐樹

### 活動の概要

（にぎやか広場）中山間地域における集う場にぎやか広場を各集落の集会所等で開催しています。福岡地域包括支援センターの協力を得て、熱中症予防や介護予防運動などに取り組んでいます。特に、12月から翌年の3月までは、冬季にぎやか広場として、ロジ山ぼうしを会場に4集落の高齢者が一堂に集まっています。会費制で風呂に入り食事をしてくつろぎます。

（買い物支援活動）平成23年6月からJAいなばが、中山間地域を対象にAコープ商品を軽四トラック（冷蔵車）に載せ、4集落を対象に毎週木曜日の午後移動販売しています。商品カタログを配布し、注文を受け、次週に持って来たり配達したりしています。



### 活動にあたっての苦心・工夫点

（にぎやか広場）参加する方は、集落内の移動でさえ大変な方ばかりであり、車で自宅まで迎えに行くこともあります。冬季にぎやか広場は、参加希望者も多く人数制限をしています。

（買い物支援活動）最初の販売先で商品が売れてしまい、欲しい商品がなくなってしまうこともあり、移動販売を利用しない集落も出てきました。返品可能な商品に限られており、なかなか要望に応えることができない状況にあります。注文をしてもらい要望に答える方法で、やっているが、買い物客は、自分の目で商品を見て買いたいという思いが強いです。

## 活動の進め方・PRの方法など

（にぎやか広場）夏場のにぎやか広場にひとりでも多くの参加者が増えるよう、PR用開催チラシを作成し、地元自治会の協力をいただき配布します。また、参加する方は、女性がほとんどであり、男性へ参加を呼びかけていきます。

（買い物支援活動）販売商品が売れてしまい、品物が無くなってしまいうこともあるので、できるだけ注文してもらうよう、販売カタログを充実させていきます。また、移動販売日に合わせ、にぎやか広場を実施することで移動販売を利用する方も増えると思います。



## 活動の課題・対応策・今後に向けて

（にぎやか広場）夏場のにぎやか広場の開催数を1回でも多く実施するため、福祉活動員や世話方の確保が必要です。また、冬季のにぎやか広場は、参加希望者も多く人数制限をしていますが、できるだけ希望されている方が参加できるように平成27年度からは毎月開催をしています。

（買い物支援活動）平成26年8月からは、JAいなばが新しく移動販売用の車（冷蔵庫を完備）を購入し、販売集落を変え、新販売ルートで移動販売をしています。また、冬期間における移動販売所の除雪が必要であり、除雪支援活動をしてくれる人を確保しなければなりません。



福岡町地域のデータ（平成27年 3月 1日現在）住民基本台帳より

人口 13,052人                      世帯数 4,364  
65歳以上人口 3,816人              高齢化率 29.2%

事務局（連絡先）

〒939-0132 高岡市福岡町大滝22 高岡市社協福岡支所内

電話 64-8114 FAX 64-8053

## 第2次高岡市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

### (設置目的)

第1条 高岡市における地域福祉の推進を目指し、第2次高岡市地域福祉活動計画を策定するために、第2次高岡市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第2条 委員会は、第2次高岡市地域福祉活動計画の策定に必要な事項について検討し、計画案を取りまとめ、社会福祉法人高岡市社会福祉協議会（以下「本会」という。）会長に提言する。

### (組織)

第3条 委員会は、委員11名以内をもって組織する。

### (委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げる者の中から本会の会長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 行政機関関係者
- (3) 地域団体関係者
- (4) 当事者団体関係者
- (5) ボランティア団体関係者

### (委員の任期)

第5条 委員の任期は、活動計画の策定をもって終了する。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を統括し、代表する。

3 委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代理する。

### (運営)

第7条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を出席させて、意見を聴くことができる。

### (庶務)

第8条 委員会の庶務は、本会の事務局において行う。

### (作業部会)

第9条 計画作成の基礎資料収集や実態把握等を行い、計画の素案を作成する作業部会を設置する。

### (その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

### 附 則

この要綱は、平成27年12月18日から施行する。

## 第2次高岡市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

(敬称略・五十音順)

区 分	氏 名	役職名	備 考
福祉関係団体	北野 晃	高岡市民生委員児童委員協議会長	
福祉関係団体	京紺 外志美	高岡市身体障害者協会会長	
福祉関係団体	小泉 弘子	地域女性ネット高岡会長	
地域活動団体	杉江 幸男	高岡市連合自治会長	
学識経験者	関 好博	富山短期大学教授	委員長
福祉関係団体	高嶋 一正	高岡市老人クラブ連合会長	
福祉関係団体	谷口 猛	高岡市社会福祉協議会副会長	
福祉関係団体	辻 やす子	(公財)たかおか女性アカデミー代表理事	
ボランティア団体	豊原 則子	高岡市ボランティア連絡協議会長	
行政機関	朴木 剛	高岡市福祉保健部次長	
福祉関係団体	山本 央子	高岡市母子寡婦福祉会長	

## 第2次高岡市地域福祉活動計画策定委員会作業部会名簿

氏 名	所 属	備 考
古野 智也	富山県社会福祉協議会地域福祉・ボランティア振興課 課長	アドバイザー
島崎 多紀子	高岡市社会福祉課 主幹	アドバイザー
広羽 孝雄	地域福祉課 課長	
坂本 恭子	" 課長代理	
川岸 葉子	" 係長	
横山 亜弥	" 主事	
青嶋 静佳	" 主事	
山本 幸恵	" 主事	
千野 珠貴	総務課 庶務係長	
田畑 美樹	" 主事	
本田 清徳	" 主事	
伊東 寿	福岡支所 支所長	
高橋 正代	ボランティアセンター 係長	
田中 美智子	在宅福祉課 主幹	
山寄 美津枝	社協居宅介護支援高岡事業所 係長	
大橋 乃梨子	博労・川原地域包括支援センター 社会福祉士	
堀岡 麻美	社協ホームヘルパーステーション 所長代理	

## 社会福祉法人高岡市社会福祉協議会役員名簿

平成27年8月1日現在

役員名	氏名	所属団体・機関等
顧問	高橋正樹	高岡市長
顧問	澤田英明	前高岡市社会福祉協議会長
会長	尾崎憲子	知識経験者
副会長	杉江幸男	高岡市連合自治会長
副会長	北野晃	高岡市民生委員児童委員協議会長
副会長	谷口猛	能町校下社会福祉協議会長
副会長	日和祐樹	福岡町地域社会福祉協議会長
専務理事	川端義明	高岡市社会福祉協議会事務局長
理事	坂林繁	野村校下社会福祉協議会長
理事	高嶋一正	高岡市老人クラブ連合会長
理事	横川照子	横田校下社会福祉協議会長
理事	中山才一	西条校下社会福祉協議会長
理事	池田正志	高岡市福祉保健部長
理事	新納耕一	戸出地区社会福祉協議会長
理事	豊原則子	高岡市ボランティア連絡協議会長
理事	井山純子	二上地区社会福祉協議会長
理事	笠島淑央	福田地区社会福祉協議会長
理事	京紺外志美	高岡市身体障害者協会会長
理事	小泉弘子	地域女性ネット高岡会長
理事	松林郁夫	太田校下社会福祉協議会長
監事	畠隆夫	二塚校下社会福祉協議会長
監事	関好博	富山短期大学教授
評議員	吉岡すみ子	平米校下社会福祉協議会長
評議員	江尻紀子	定塚校下社会福祉協議会長
評議員	藤田康則	下関校下社会福祉協議会長
評議員	林正晴	博労校下社会福祉協議会長
評議員	三本松誠身	川原校下社会福祉協議会長
評議員	串田則子	成美校下社会福祉協議会長
評議員	大巻憲五	守山地区社会福祉協議会長

役員名	氏名	所属団体・機関等
評議員	北 雅 子	佐野地区社会福祉協議会長
評議員	長 橋 武 夫	木津校下社会福祉協議会長
評議員	笠 谷 清 司	小勢地区社会福祉協議会長
評議員	嶋 田 清 光	立野地区社会福祉協議会長
評議員	前 田 義 弘	東五位校下社会福祉協議会長
評議員	横 山 勲	石堤地区社会福祉協議会長
評議員	米 澤 陽 子	国吉校下社会福祉協議会長
評議員	伊 藤 眞 市	牧野校下社会福祉協議会長
評議員	横 越 政 衛	伏木地区社会福祉協議会長
評議員	大 塚 義 弘	中田地区社会福祉協議会長
評議員	山 本 央 子	高岡市母子寡婦福祉会長
評議員	鎌 谷 克 彦	高岡市保護司会長
評議員	小 西 順 子	高岡市更生保護女性会副会長
評議員	館 勇 将	高岡市児童クラブ連合会長
評議員	緒 方 清 昭	高岡市保健衛生協会会長
評議員	村 本 涼 世	高岡市医師会事務局長
評議員	河 合 博 子	高岡市ヘルスボランティア協議会長
評議員	本 江 学	高岡市PTA連絡協議会長
評議員	辻 やす子	(公財)たかおか女性アカデミー代表理事
評議員	海 道 俊 雄	鳳鳴苑施設長
評議員	井 田 由 美	かたかご苑長
評議員	塚 原 博 密	志貴野苑所長
評議員	伊 藤 達 哉	さくら苑施設長
評議員	山 本 純 子	あしつきふれあいの郷施設長
評議員	伏 江 喜 夫	雨晴苑施設長
評議員	南 義 昭	新生苑長
評議員	円 佛 利 康	富山県高岡厚生センター次長
評議員	阿 尾 行 将	高岡市教育委員会教育次長・学校教育課長
評議員	本 田 邦 博	高岡市高齢介護課長
評議員	朴 木 剛	高岡市社会福祉課長

## 第2次 高岡市地域福祉活動計画

発行 平成 28 年 3 月  
編集・発行 社会福祉法人高岡市社会福祉協議会  
〒933-0866  
高岡市清水町 1 丁目 7 番 30 号  
TEL 0766-23-2917 / FAX 0766-26-2379  
E-mail info@takaoka-shakyo.or.jp

支所  
〒939-0132  
高岡市福岡町大滝 22 (福岡健康福祉センター内)  
TEL 0766-64-8114 / FAX 0766-64-8053  
E-mail fukuoka.branch@takaoka-shakyo.or.jp